

令和7年度

NETIS説明会（調査・設計者向け） 参考資料

1. NETIS情報の検索と閲覧
2. 活用効果調査表等の作成
3. 九州地整管内の活用件数の多い技術

（工種分類：CALS関連技術, 調査試験）

2025. 6. 20（金） 11:00～12:00

九州地方整備局

参考資料

1. NETIS情報の検索と閲覧
2. 活用効果調査表等の作成
3. 九州地整管内の活用件数の多い技術
(工種分類：CALS関連技術, 調査試験)

➤ NETISから新技術の情報収集等が検索可能です。



NETISのHPにはじめてアクセスすると、簡単なアンケートと利用上の注意事項と注意事項の同意が求められます。

初めてアクセスされた方へ

ここでは、初めてNETISホームページにアクセスされた方を対象に、利用者の大まかな属性を把握するための簡単なアンケートを実施しています。利用者個人を特定するためものではありませんので、ご協力ください。

※Cookieの設定が有効になっていない方は、アクセスする度にこの画面が表示されます。

以下の項目から、あなたの職種に最も近いと思われる分野を選んで下さい。

- 土木
- 建築
- 設備
- 製造
- 建設コンサルタント
- その他
- 電力ガス

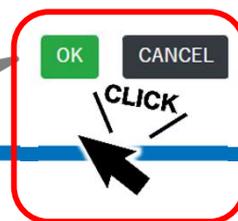
該当する分野を選択します

NETIS（新技術情報提供システム）利用上の注意事項

- NETIS掲載情報は、当該技術に関する証明、認証その他何ら技術の裏付けを行うものではなく、新技術活用に当たっての参考情報といった性格のものであること。
- 特に、申請情報は、技術開発者からの申請に基づく情報であり、その内容について、国土交通省及び評価会議（整備局等）が評価等を行っているものではないこと。また、申請情報のNETIS掲載に伴う苦情、紛争等への対応は、NETIS申請者が行うものであり、国土交通省は何らの責任も有しないこと。
- 評価情報は、当該技術の活用等を行った結果に基づき評価を行ったものであり、個々の現場の条件その他により評価は変わりうる等の性格を有するものであること。
- 新技術の活用は、現場毎の条件の適合性等による判断に応じて設計・工事担当部署がそれぞれ行うものであり、評価結果に基づき当該技術の活用等の実施が保証されるといった性格のものではないこと。
- 特許権等知的財産権については、関係法令に基づき取り扱われるものであること。

上記内容について同意できる場合は「OK」、同意できない場合は「CANCEL」をクリックして下さい。

注意事項について同意できる場合は「OK」をクリックして利用ができるようになります。



▶ NETIS（新技術情報提供システム）利用時の注意事項

1. NETIS掲載情報は、当該技術に関する証明、認証その他何ら技術の裏付けを行うものではなく、新技術活用に当たっての参考情報といった性格のものであること。
2. 特に、申請情報は、技術開発者からの申請に基づく情報であり、その内容について、国土交通省及び評価会議（整備局等）が評価等を行っているものではないこと。また、申請情報のNETIS掲載に伴う苦情、紛争等への対応は、NETIS申請者が行うものであり、国土交通省は何らの責任も有しないこと。
3. 評価情報は、当該技術の活用等を行った結果に基づき評価を行ったものであり、個々の現場の条件その他により評価は変わりうる等の性格を有するものであること。
4. 新技術の活用は、現場毎の条件の適合性等による判断に応じて設計・工事担当部署がそれぞれ行うものであり、評価結果に基づき当該技術の活用等の実施が保証されるといった性格のものではないこと。
5. 特許権等知的財産権については、関係法令に基づき取り扱われるものであること。

- NETISは公共工事等で活用する新技術をまとめたデータベースです。
- 公共工事や業務で活用できる様々な技術（工法・材料・機械・製品・システム等）が掲載されています。
- 新技術はNETISのTOPページから検索することができます。

(R7. 4月現在 3,700件)

The screenshot shows the NETIS search interface with five numbered callouts explaining the search process:

- 1 キーワードで検索できます。** (Search by keyword.) The callout points to the search input fields at the top left.
- 2 工種で検索できます。** (Search by industry.) The callout points to the industry selection dropdowns.
- 3 有用な新技術を選択すると表示されます。** (Useful new technologies are displayed when selected.) The callout points to the checkboxes for selecting useful technologies.
- 4 期待する効果を選択すると表示されます。** (Expected effects are displayed when selected.) The callout points to the checkboxes for selecting expected effects.
- 5 条件を入力・選択したら、最後にクリックします。** (After inputting/selecting conditions, click at the end.) The callout points to the search button.

The interface includes a navigation bar with buttons for '新技術の検索', '登録申請/変更・更新/事前相談', '活用効果調査表/活用計画書', 'テーマ設定型の比較表', 'マッチング', '維持管理技術ページ', '震災復旧・復興支援技術ページ', 'NETIS活用状況データベース', and 'マニュアル/FAQ'. The search area has a '検索キーワード' field, an 'and' field, and a 'キーワード検索条件を追加' button. The industry selection area has a '工種' dropdown, a '工種検索条件を追加' button, and radio buttons for 'and' and 'or'. The selection area has checkboxes for '推奨技術', '準推奨技術', '評価促進技術', '活用促進技術', '旧実施要領での技術の位置付け', and '活用促進技術(旧)'. The effect selection area has checkboxes for '経済性の向上', '工程の短縮', '品質の向上', '安全性の向上', '施工性の向上', and '周辺環境への影響抑制'. The search button is labeled 'この条件で検索'.

NETISの検索（登録番号や名称で検索）

キーワード入力による検索！

NETISの登録番号や、NETISの製品名等がわかっている場合は、検索キーワードを入力してください。

The screenshot shows the NETIS search page. A red box highlights the search keyword input field containing 'QS-240001 -A'. A red arrow points from this field to a red box containing the text 'この条件で検索' (Search with this condition). Another red arrow points from the search button to a red box containing the text 'この条件で検索' (Search with this condition). The page also shows various filters and search options.

① 検索技術名称・NETIS登録番号のキーワードを入力

※NETIS番号で検索する場合、末尾の識別記号「-A」は、評価会議において「VR」や「VE」に変更する場合があるので入力しません。

② 「この条件で検索」をクリック

※【キーワード検索条件を追加】で対象の両単語とも含まれる技術を検索できます。

③ 該当する技術が表示される

The screenshot shows the search results page. The search keyword 'qs-240001' is entered in the search bar. The search button is labeled 'この条件で検索'. The results section shows one result: '1 地中変位計 ShapeArray CLOUD (シェイプアレイクラウド) (QS-240001-A)'. The result includes a thumbnail image and a brief description. The page also shows navigation controls and a sidebar with filters.

③ NETIS技術表示

1. NETIS掲載情報は、当該技術を行っものではなく、新技術ものであること。
2. 特に、申請情報は、技術開発容について、国土交通省及びるものではないこと。また、の対応は、NETIS申請者が行しないこと。

有用な新技術を選択！

活用の効果の高い「有用な新技術」を検索することができます。

（令和7年6月現在）

- 有用な新技術 (304件)
 - ・ 推奨技術 (32件)
 - ・ 準推奨技術 (29件)
 - ・ 評価促進技術 (3件)
 - ・ 活用促進技術 (281件)

[新技術の検索](#)
[登録申請/変更・更新/事前相談](#)
[活用効果調査表/活用計画書](#)
[テーマ設定型の比較表](#)
[マッチング](#)
[維持管理技術ページ](#)
[震災復旧・復興支援技術ページ](#)
[NETIS活用状況データベース](#)

新技術を探す

検索キーワード 工種別頻出キーワード一覧

or or

▼キーワード検索条件を追加

工種 工種分類一覧

▼工種検索条件を追加

①有用な技術を選択

有用な新技術の選択

推奨技術 準推奨技術 評価促進技術 活用促進技術

旧実施要領での技術の位置付け

活用促進技術 (旧) 設計比較対象技術 少実績優良技術

新技術に期待する効果で更に絞り込む

経済性の向上 工程の短縮 品質の向上 安全性の向上

施工性の向上 周辺環境への影響抑制

この条件で検索

他の条件を表示

※チェックボックス条件は、1つも選ばないと絞込なし（全件）になります。

申請されている **②クリック**

試行現場照会一覧

過去に選定された推奨技術・準推奨技術の一覧

利用上の注意

What's NEW

2024年04月18日 震災復旧・復興支援技術ページの活用～震災復旧・復興支援技術ページの活用～

2024年04月03日 「新技術活用システム」を「新技術活用スキーム」に

2024年03月01日 「R6.4.1掲載期間終了となる技術リスト（予定）」を

③NETIS技術表示

比較	No.	技術概要	写真	登録年度	最終評価年月日	技術の位置付け	活用効果調査 (件数)
<input type="checkbox"/>	1	ハクオール (KT-220019-VE) 本技術は撥水性を高めたコンクリート型枠用剥離剤である。従来は鉱物油を主成分とした剥離剤であった。本技術の活用により、気泡が原因の補修工程を削減し、緻密で高品質な色ムラのないコンクリートとなる。撥水効果で離型性とノロ付着の低減効果に優れ作業性も向上する。		2022 (R04)	2023/09/25 (R05/09/25)	★ 活用促進	33 件
<input type="checkbox"/>	2	塗布量管理革命「シールdeチェッカー」 (SK-210002-VE) コンクリート構造物の表面に貼り付けて、コンクリート表面含浸材が規定塗布量以上に塗布又は散布されているかを確認するための塗布量確認シールである。従来のマット式確認法は3工程が必要であったが、本技術は変色確認の1工程で済み、経済性の向上や工程の短縮が図れる。		2021 (R03)	2024/02/19 (R06/02/19)	★ 活用促進	9 件
<input type="checkbox"/>	3	中圧噴射機械攪拌工法(MITS工法CMS-ICTシステム) (QS-210009-VE) 本技術は、深層混合処理(スラリー攪拌工)に関する技術である。ICT対応バックホウタイプの地盤改良機		2021 (R03)	2023/09/25 (R05/09/25)	★ 活用促進	8 件

NETISの検索（工種で検索）

工種で絞り込む！

レベル4までの工種に分類されているので、絞り込むことができます。

新技術の検索

登録申請/変更・更新 /事前相談

活用効果調査表 /活用計画書

テーマ設定型の比較表

マッチング

新技術を探す

検索キーワード 工種別頻出キーワード一覧

▼キーワード検索条件を追加

① 工種を選択

工種

レベル1 レベル2 レベル3 レベル4 工種分類一覧

共通工 軟弱地盤処理工 施工管理 品質管理

▼工種検索条件を追加 工種検索条件: and or

有用な新技術の選択

推奨技術 準推奨技術 評価促進技術 活用促進技術 説明

旧実施要領での技術の位置付け

活用促進技術(旧) 設計比較対象技術 少実績優良技術 説明

新技術に期待する効果で更に絞り込む

経済性の向上 工程の短縮 品質の向上 安全性の向上 施工性の向上

周辺環境への影響抑制

この条件で検索 ▼他の条件を表示

※チェックボックス条件は、1つも選ばないと検索なし。(全件)になります。

[申請されている従](#) **② クリック**

[試行現場照会一覧](#)

[過去に選定された推奨技術・準推奨技術の一覧](#)

利用上の注意

工種（レベル1）：
土工、共通工、基礎工、仮設工、コンクリート工、河川海岸、河川維持、砂防工、舗装工、付属施設、道路維持修繕工、共同溝工、トンネル工、橋梁上部工、公園、ダム、シールド、推進工、上下水道工、機械設備、建築、建築設備（電気）、建築設備（機械）、環境対策工、調査試験、ITS関連技術、電気通信設備、港湾・港湾海岸・空港、空港土木、空港舗装工、柵工、撤去工、その他

③ NETIS技術表示

比較	No.	技術概要	写真	登録年度	最終評価年月日	技術の位置付け	活用効果調査（件数）	活用状況
<input type="checkbox"/>	1	大深度先端位置計測システム（KT-230278-A） 本技術は相対攪拌式深層混合処理工法（DCS工法）を対象に施工中リアルタイムに攪拌翼の先端位置を計測し可視化するシステムである。本技術の活用により孔曲がり等が早い段階で修正できる。また、先端位置を所定の位置に精度良く誘導することによって品質の向上が図れる。		2023 (R05)				
<input type="checkbox"/>	2	盛土併用真空圧密工法の自動動態観測システム（HK-200012-A） 本技術は、軟弱地盤上の盛土の安定管理を行う技術で、従来は変位杭と沈下板を人力による測量で計測管理していた。本技術の活用により自動追尾型計測による省人化が図られ、1日の測定回数が増えることにより盛土安定管理の精度が向上する。		2020 (R02)				
<input type="checkbox"/>	3	杭 打太郎（KK-190022-A） 本技術はデジタルカメラ搭載型トータルステーションとモニタ画像による杭の打設位置、鉛直度、打設深さを誘導するシステム技術であり、従来はトランシットによる杭打設管理を行っていた。本技術の活用により、経済性、施工性の向上が期待できる。		2019 (R01)			1件	

NETISの検索（期待する効果で検索）

新技術に期待する効果で絞り込む！

経済性、工程、品質、安全性、施工性、周辺環境のうち期待する効果で絞り込むことができます。

NETIS 新技術情報提供システム
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

新技術の検索

登録申請/変更・更新/事前相談 | 活用効果調査表/活用計画書 | テーマ設定型の比較表 | マッチング | 維持管理技術ページ | 震災支援

新技術を探す

検索キーワード or or [工種別頻出キーワード一覧](#)

① 工種を選択

工種 [工種分類一覧](#)

工種検索条件: and or

有用な新技術の選択

推奨技術 準推奨技術 評価促進技術 活用促進技術 [説明](#)

旧実施要領での技術の位置付け

活用促進技術 (旧) 設計 **② 期待する効果を選択** [説明](#)

新技術に期待する効果で更に絞り込む

経済性の向上 工程の短縮 品質の向上 安全性の向上 施工性の向上

周辺環境への影響抑制

※チェックボックス条件は、1つも選ばないと絞込なし（全件）になります。

[申請されている従来技術名の一覧](#) **③ クリック**

[試行現場照会一覧](#)

[過去に選定された推奨技術・準推奨技術の一覧](#)

[利用上の注意](#)

（例）道路維持工事で工期短縮できる新技術があるかを検索する場合



工種で道路維持修繕工を選択しさらに工程の短縮にを入れて検索する。

What's NEW

- 2024年04月18日 [震災復旧・復興支援技術](#)
- 2024年04月03日 [「新技術活用システム」](#)
- 2024年03月01日 [「R6.4.1掲載期間終了となる技術リスト（予定）」を掲載しました。](#)

記者発表資料等

- 2024年03月27日 [「打設直後のセメント、コンクリートの養生技術」について 技術比較表を公表しま...](#)
- 2024年02月13日 [土木鋼構造用塗膜剥離剤技術の技術公募を行います ～現場ニーズ・行政ニーズい...](#)
- 2024年02月05日 [「建設機械の物体検知及び衝突リスク低減に関する技術」について技術比較表を公...](#)

④ NETIS技術表示

技術概要	アブストラクト	選択	写真	登録年度	最終評価年月日	技術の位置付け	活用効果調査
1	防草樹脂連続移動吹付システム (KT-240016-A) 本技術は、縁石、目地、法面目地に活用できる、防草樹脂（ウレタン樹脂、ポリウレタ樹脂）と連続移動吹付装置を用いた防草対策である。従来は防草目地材で対応していた。本技術の活用により、防草樹脂の使用で高い耐久性が期待でき、施工時間が短縮し施工性の向上が図れる。			2024 (R06)			
2	コンクリート欠損部補修066 (KT-240012-A) 本技術は、コンクリート欠損部に用いる密着成分を超微粒子に改良した変性エポキシ樹脂防錆補修・補強剤で、従来は、ポリマーセメントモルタル等に対応していた。本技術の活用により、被塗面との付着性が向上し、防錆処理等の前処理が不要となるため、工程の短縮が図れる。			2024 (R06)			
3	STEEL-C.A.P工法 (KK-240002-A) 橋梁上部工の老朽RC床版の取替えにおいて、従来のプレキャストP.C床版による床版取替技術に対し、鋼床版を用いた本技術により、急速取替が可能で経済性			2024 (R06)			

- 国土交通省発注工事で活用され、国の機関により活用後の事後評価を受けた新技術のうち、特に優れた技術と認められたものが「有用な新技術」として取り扱われ、「推奨技術」「準推奨技術」「評価促進技術」「活用促進技術」に分類されます。

新技術概要説明情報

NETIS登録番号	
技術名称	
アブストラクト	
事後評価	事後評価済み技術 2023/03/07 (R05/03/07)
テーマ設定型比較表への掲載	無
受賞等	建設技術審査証明※
事前審査・事後評価	<div style="display: flex; gap: 5px;"> 事前審査 試行実証評価 活用効果評価 </div>
技術の位置付け (有用な新技術)	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; display: flex; align-items: center;"> 推奨技術 令和5年度選定 2023/06/05 (R05/06/05) ~ </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">準推奨技術</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">評価促進技術</div> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; display: flex; align-items: center;"> 活用促進技術 令和4年度選定 2023/03/07 (R05/03/07) ~ </div> </div>
旧実施要領における 技術の位置付け	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> 活用促進技術(旧) 設計比較対象技術 少実績優良技術 </div>
活用効果調査入力様式	<div style="display: flex; align-items: center;"> -VE 活用効果調査表の作成・登録 </div> <p>活用効果調査は不要です。（フィールド提供型、テーマ設定型で活用する場合を除く。）</p>
適用期間等	-VE評価：2023/3/7 (R5/3/7) ~ 活用促進技術：2023年3月7日~ 推奨技術：2023年6月5日~

事後評価済技術は、青色で表示されます。また、事後評価結果が閲覧できます。

有用な技術に指定された技術は、赤字で表示されます。

- 各々の新技術の閲覧画面には、技術の概要、従来技術との比較など、申請時の情報が掲載されています。
- 【従来技術との比較】には、新技術開発者が一般的な条件での従来技術を設定し、新技術との比較を行った場合の「経済性」「工程」等の活用の効果および根拠等が掲載されています。

活用効果

比較する従来技術 スラリー攪拌工法+先行掘削工

項目	活用の効果	比較の根拠
経済性	向上 (49.59%)	従来技術と比較して、先行掘削工が不要となり、コスト縮減が可能となる。
工程	短縮 (63.92%)	従来技術と比較して、先行掘削工が不要となり、工期短縮が可能となる。
品質	向上	従来技術と比較して、相对攪拌のため混練性能が向上する。
安全性	向上	従来技術と比較して、先行掘削の工程が不要となり、危険要因が減少する。
施工性	向上	従来技術と比較して、先行掘削の工程が不要となり、一工程で施工が可能となる。
周辺環境への影響	向上	
その他、技術の アピールポイント等		従来は、地中障害物混在地盤等では深層混合処理施工が困難であったが、新技術では様々な地盤条件に対応可能となる。
コストタイプ	並行型：B(+)	

閲覧したい項目をクリックします。

新技術と比較する従来技術が確認できます。

NETISの申請情報は、申請者が従来技術と比較した場合の活用の効果と根拠が記載されています。参考資料として確認してください。

活用効果の根拠

基準とする数量	100.00	単位	本
	新技術	従来技術	向上の程度
経済性	42,640,800円	84,587,600円	49.59 %
工程	35日	97日	63.92 %

新技術の内訳

項目	仕様	数量	単位	単価	金額	摘要
----	----	----	----	----	----	----

➤ 直轄工事での活用が行われた技術に対して、新技術の活用効果等を総合的に判断するため、活用時に行う調査の結果に基づき、当該技術の優位性、安定性、現場適用性が総合的に評価されています

活用効果評価一覧

NETIS登録番号	
技術名称	
評価回数	活用効果評価ファイル（公開版）
1 回目	活用効果評価へ

活用効果評価一覧が表示され、「活用効果評価へ」をクリックすると活用効果評価結果が閲覧できます。

活用効果評価結果

令和2年度 九州地方整備局 / 新技術活用評価会議 様式 V-5

開発目標	経済性の向上、安全性の向上、品質の向上																																																																								
新技術登録番号	区分	工法	有用な技術の位置づけ	活用促進技術																																																																					
分類	共通工 - 深層混合処理工 - 固結工 - セメントミルク攪拌工																																																																								
新技術名																																																																									
比較する従来技術(従来工法)																																																																									
新技術の概要及び特徴	本技術は、地盤改良施工において障害となる地中障害物混在地盤における地盤改良技術であり、従来は事前に先行掘削工等の追加工法による対応が必要であった。本技術の活用により、補助工法が不要となりコスト削減・工期短縮が可能となる。																																																																								
所見	<p>【優れていた所】</p> <p>【経済性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 先行掘削等が不要なため、経済性に優れている。 <p>【工程】</p> <ul style="list-style-type: none"> 先行掘削等が不要なため、工期が短縮できる。 <p>【品質・出来形】 OS-*****-VE</p> <ul style="list-style-type: none"> 相対攪拌による練り混ぜ性能の向上により、改良体の品質が向上する。 <p>【安全性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 先行掘削等が不要なため、重機災害の危険要因が減少する。 <p>【施工性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 先行掘削等が不要で、1工程で改良体の施工が可能のため、施工性に優れている。 <p>【劣っていた所】</p> <p>特記事項なし</p>																																																																								
活用効果評価	<p>次図以降の評価に対する視点と評価の必要性</p> <p>留意事項</p> <p>当該技術における改良点及び要項</p>																																																																								
<p>項目の平均(点)と従来技術(従来工法)(点)の比較</p> <p>参考</p>																																																																									
<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>地盤改良工事</td> <td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td> <td>業任意指定期</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>改良工事</td> <td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td> <td>業任意指定期</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>改良工事</td> <td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td> <td>施工業者選定(契約後選定)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>改良工事</td> <td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td> <td>施工業者選定(契約後選定)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>改良工事</td> <td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td> <td>業任意指定期</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>改良工事</td> <td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td> <td>業任意指定期</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>改良工事</td> <td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td> <td>業任意指定期</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>改良工事</td> <td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td> <td>業任意指定期</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>改良工事</td> <td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td> <td>業任意指定期</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>改良工事</td> <td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td> <td>業任意指定期</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>改良工事</td> <td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td> <td>業任意指定期</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>改良工事</td> <td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td> <td>業任意指定期</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>改良工事</td> <td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td> <td>業任意指定期</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>改良工事</td> <td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td> <td>業任意指定期</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>改良工事</td> <td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td> <td>業任意指定期</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>改良工事</td> <td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td> <td>業任意指定期</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>改良工事</td> <td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td> <td>業任意指定期</td> </tr> </table>						1	地盤改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期	2	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期	3	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	施工業者選定(契約後選定)	4	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	施工業者選定(契約後選定)	5	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期	6	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期	7	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期	8	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期	9	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期	10	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期	11	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期	12	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期	13	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期	14	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期	15	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期	16	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期	17	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期
1	地盤改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																						
2	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																						
3	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	施工業者選定(契約後選定)																																																																						
4	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	施工業者選定(契約後選定)																																																																						
5	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																						
6	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																						
7	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																						
8	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																						
9	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																						
10	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																						
11	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																						
12	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																						
13	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																						
14	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																						
15	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																						
16	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																						
17	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																						

活用効果評価における「所見」「留意事項」

対象技術における改良点及び要項	特記事項なし																																																																																																																																																																																																																																																																																						
対象工事	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>地盤改良工事</td><td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td><td>業任意指定期</td></tr> <tr><td>2</td><td>改良工事</td><td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td><td>業任意指定期</td></tr> <tr><td>3</td><td>改良工事</td><td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td><td>施工業者選定(契約後選定)</td></tr> <tr><td>4</td><td>改良工事</td><td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td><td>施工業者選定(契約後選定)</td></tr> <tr><td>5</td><td>改良工事</td><td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td><td>業任意指定期</td></tr> <tr><td>6</td><td>改良工事</td><td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td><td>業任意指定期</td></tr> <tr><td>7</td><td>改良工事</td><td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td><td>業任意指定期</td></tr> <tr><td>8</td><td>改良工事</td><td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td><td>業任意指定期</td></tr> <tr><td>9</td><td>改良工事</td><td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td><td>業任意指定期</td></tr> <tr><td>10</td><td>改良工事</td><td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td><td>業任意指定期</td></tr> <tr><td>11</td><td>改良工事</td><td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td><td>業任意指定期</td></tr> <tr><td>12</td><td>改良工事</td><td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td><td>業任意指定期</td></tr> <tr><td>13</td><td>改良工事</td><td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td><td>業任意指定期</td></tr> <tr><td>14</td><td>改良工事</td><td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td><td>業任意指定期</td></tr> <tr><td>15</td><td>改良工事</td><td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td><td>業任意指定期</td></tr> <tr><td>16</td><td>改良工事</td><td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td><td>業任意指定期</td></tr> <tr><td>17</td><td>改良工事</td><td>(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)</td><td>業任意指定期</td></tr> </table>																	1	地盤改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期	2	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期	3	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	施工業者選定(契約後選定)	4	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	施工業者選定(契約後選定)	5	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期	6	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期	7	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期	8	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期	9	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期	10	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期	11	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期	12	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期	13	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期	14	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期	15	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期	16	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期	17	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																																																																																																																																																		
1	地盤改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																																																																																																																																																																																																																																				
2	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																																																																																																																																																																																																																																				
3	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	施工業者選定(契約後選定)																																																																																																																																																																																																																																																																																				
4	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	施工業者選定(契約後選定)																																																																																																																																																																																																																																																																																				
5	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																																																																																																																																																																																																																																				
6	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																																																																																																																																																																																																																																				
7	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																																																																																																																																																																																																																																				
8	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																																																																																																																																																																																																																																				
9	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																																																																																																																																																																																																																																				
10	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																																																																																																																																																																																																																																				
11	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																																																																																																																																																																																																																																				
12	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																																																																																																																																																																																																																																				
13	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																																																																																																																																																																																																																																				
14	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																																																																																																																																																																																																																																				
15	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																																																																																																																																																																																																																																				
16	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																																																																																																																																																																																																																																				
17	改良工事	(従来技術:スラリー掘削工法-先行掘削工)	業任意指定期																																																																																																																																																																																																																																																																																				
効果調査結果	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="17">おおよび年度</th> <th rowspan="2">項目の平均(点)</th> <th rowspan="2">従来技術(従来工法)(点)</th> </tr> <tr> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th><th>9</th><th>10</th><th>11</th><th>12</th><th>13</th><th>14</th><th>15</th><th>16</th><th>17</th> </tr> <tr> <td rowspan="6">施工時評価</td> <td>経済性</td> <td>A</td><td>B</td><td>B</td><td>B</td><td>A</td><td>A</td><td>A</td><td>B</td><td>A</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>B</td><td>C</td> </tr> <tr> <td>工程</td> <td>A</td><td>B</td><td>A</td><td>B</td><td>A</td><td>A</td><td>A</td><td>B</td><td>A</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>A</td><td>C</td> </tr> <tr> <td>品質・出来形</td> <td>C</td><td>A</td><td>B</td><td>B</td><td>B</td><td>B</td><td>B</td><td>B</td><td>B</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>B</td><td>C</td> </tr> <tr> <td>安全性</td> <td>C</td><td>B</td><td>B</td><td>B</td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>C</td><td>B</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>B</td><td>C</td> </tr> <tr> <td>施工性</td> <td>C</td><td>B</td><td>B</td><td>B</td><td>A</td><td>A</td><td>B</td><td>B</td><td>A</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>B</td><td>C</td> </tr> <tr> <td>環境</td> <td>C</td><td>C</td><td>B</td><td>C</td><td>B</td><td>B</td><td>B</td><td>C</td><td>B</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>C</td><td>C</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>総合評価点</td> <td>B</td><td>B</td><td>B</td><td>B</td><td>B</td><td>B</td><td>B</td><td>B</td><td>B</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>B</td><td>C</td> </tr> <tr> <td>今後、当該技術を採用出来る工事に活用したいか</td> <td colspan="17"> <table border="1"> <tr> <td>今更にも是非採用したい</td> <td>50%</td> <td>39%</td> <td>11%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>採用を検討しない</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>場合によっては採用することもあり</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>技術の普及を促す</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td>各項目における判定</td> <td colspan="17"> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>従来技術と同等</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>従来技術より劣る</td> </tr> </table> </td> </tr> </table>																	項目	おおよび年度																	項目の平均(点)	従来技術(従来工法)(点)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	施工時評価	経済性	A	B	B	B	A	A	A	B	A									B	C	工程	A	B	A	B	A	A	A	B	A									A	C	品質・出来形	C	A	B	B	B	B	B	B	B									B	C	安全性	C	B	B	B	A	B	C	C	B									B	C	施工性	C	B	B	B	A	A	B	B	A									B	C	環境	C	C	B	C	B	B	B	C	B									C	C	その他																				総合評価点	B	B	B	B	B	B	B	B	B									B	C	今後、当該技術を採用出来る工事に活用したいか	<table border="1"> <tr> <td>今更にも是非採用したい</td> <td>50%</td> <td>39%</td> <td>11%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>採用を検討しない</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>場合によっては採用することもあり</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>技術の普及を促す</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>																	今更にも是非採用したい	50%	39%	11%	0%	採用を検討しない					場合によっては採用することもあり					技術の普及を促す					各項目における判定	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>従来技術と同等</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>従来技術より劣る</td> </tr> </table>																	A	従来技術より優れる	B	従来技術より優れる	C	従来技術と同等	D	従来技術より劣る
項目	おおよび年度																		項目の平均(点)	従来技術(従来工法)(点)																																																																																																																																																																																																																																																																			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17																																																																																																																																																																																																																																																																						
施工時評価	経済性	A	B	B	B	A	A	A	B	A									B	C																																																																																																																																																																																																																																																																			
	工程	A	B	A	B	A	A	A	B	A									A	C																																																																																																																																																																																																																																																																			
	品質・出来形	C	A	B	B	B	B	B	B	B									B	C																																																																																																																																																																																																																																																																			
	安全性	C	B	B	B	A	B	C	C	B									B	C																																																																																																																																																																																																																																																																			
	施工性	C	B	B	B	A	A	B	B	A									B	C																																																																																																																																																																																																																																																																			
	環境	C	C	B	C	B	B	B	C	B									C	C																																																																																																																																																																																																																																																																			
その他																																																																																																																																																																																																																																																																																							
総合評価点	B	B	B	B	B	B	B	B	B									B	C																																																																																																																																																																																																																																																																				
今後、当該技術を採用出来る工事に活用したいか	<table border="1"> <tr> <td>今更にも是非採用したい</td> <td>50%</td> <td>39%</td> <td>11%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>採用を検討しない</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>場合によっては採用することもあり</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>技術の普及を促す</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>																	今更にも是非採用したい	50%	39%	11%	0%	採用を検討しない					場合によっては採用することもあり					技術の普及を促す																																																																																																																																																																																																																																																						
今更にも是非採用したい	50%	39%	11%	0%																																																																																																																																																																																																																																																																																			
採用を検討しない																																																																																																																																																																																																																																																																																							
場合によっては採用することもあり																																																																																																																																																																																																																																																																																							
技術の普及を促す																																																																																																																																																																																																																																																																																							
各項目における判定	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>従来技術と同等</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>従来技術より劣る</td> </tr> </table>																	A	従来技術より優れる	B	従来技術より優れる	C	従来技術と同等	D	従来技術より劣る																																																																																																																																																																																																																																																														
A	従来技術より優れる																																																																																																																																																																																																																																																																																						
B	従来技術より優れる																																																																																																																																																																																																																																																																																						
C	従来技術と同等																																																																																																																																																																																																																																																																																						
D	従来技術より劣る																																																																																																																																																																																																																																																																																						

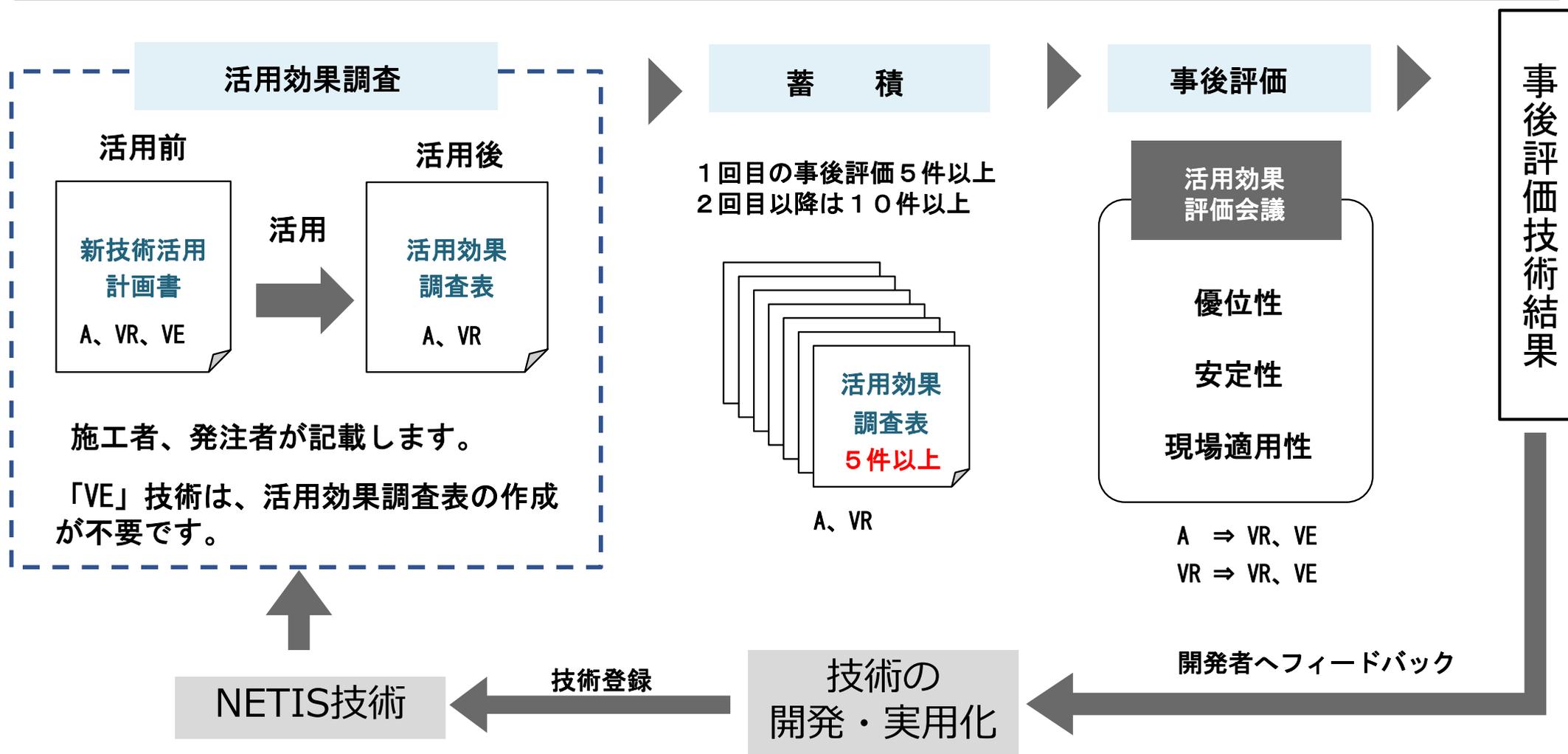
活用効果調査結果

参考資料

1. NETIS情報の検索と閲覧
2. 活用効果調査表等の作成
3. 九州地整管内の活用件数の多い技術
(工種分類：CALS関連技術, 調査試験)

- 新技術の活用時には、活用効果調査を行います。
- 活用効果調査表が5件以上蓄積したら、大学、産業界、研究機関、行政等からなる技術活用評価会議で技術特性などが評価されます。

事後評価の流れ（発注者指定型、施工者選定型）



- 事後評価において、優れていると判断された新技術は、有用な新技術として選定されます。

新技術活用評価会議（地方整備局）

活用促進技術

- ・ 総合的に活用の効果が優れている技術
- ・ 特定の性能又は機能が特に優れている技術
- ・ 特定の地域のみで普及しており、全国に普及することが有益と判断される技術
- ・ その他評価会議が選考し指定する技術

※平成26年4月1日より、従来の「活用促進技術」「設計比較対象技術」「少実績優良技術」を「活用促進技術」に統合



推薦

新技術活用スキーム検討会議（全国）

推奨技術

- ・ 公共工事等に関する技術の水準を一層高めるために選定された画期的な新技術

準推奨技術

- ・ 上記の推奨技術と位置づけるためには更なる発展を期待する部分がある新技術

直轄工事での活用効果調査の重要性

- 活用効果調査表は、直轄工事等で活用された新技術の有用性を検証し、評価することを目的とした事後評価にかかせない重要な基礎資料です。厳正な評価をお願いします。
- 不備のない厳正な調査表の作成により**施工者・発注者のメリットにつながる**。

調査表の内容について疑義があると、再確認する場合があります！
調査表の内容について疑義があると、事後評価の際〔数年後〕に問合せが来る場合があります。

活用効果調査表が
5件蓄積されても



4件



評価可能な調査表



1件



**不備のある
活用効果調査表**

調査表の5件のうち内容に不備があれば評価に使えないことがあります

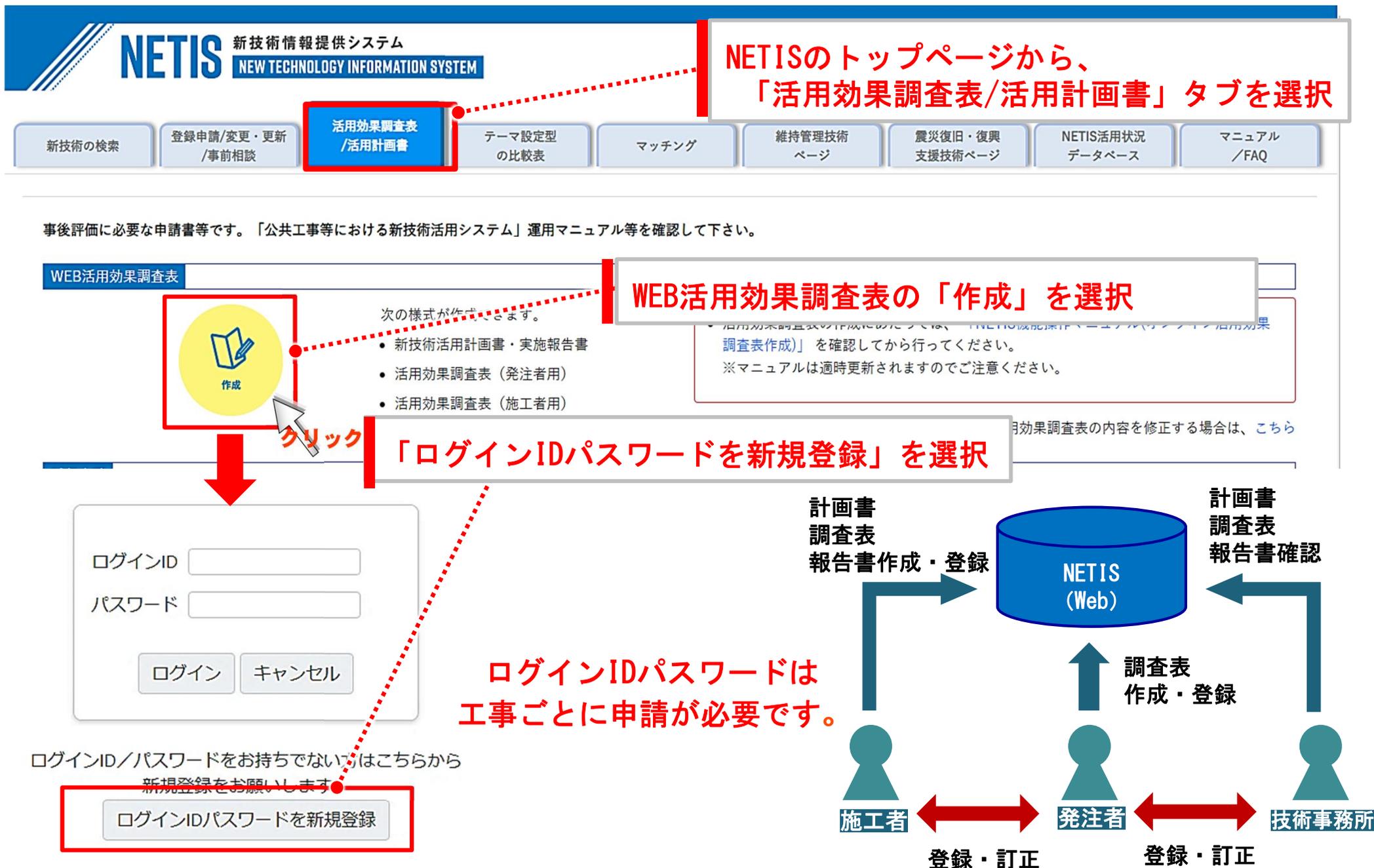
活用効果調査表が
5件以上で実施

**新技術活用
評価会議**



調査表が5件に満たないため、評価会議で評価されず、事後評価ができません。

▶ 新技術活用効果調査表等はNETISのシステムから作成します。



- 活用効果調査表は、「新技術活用計画書」、「実施報告書」、「活用効果調査表（発注者用、施工者用）」で構成されています。
- 活用計画書は、新技術を活用する施工期間や活用理由などを記載します。
- 実施報告書は、新技術を使用した際の対象数量や施工の概要を記載します。
- 活用効果調査表は、実際の現場での新技術の効果に関して、申請情報に記載された従来技術との比較評価を記載します。

新技術活用前 (VE A VR)

■新技術活用計画書

※システム画面は、一部簡略化しています。

技術活用種別
登録番号(技術活用提案日時点)
新技術名称
比較する従来技術
組織所属名
部署・事務所名
工事名
活用等の型
登録年度(前期)
作成日
発注者名
契約種別(内)
工事期間
新技術施工期間
施工場所
活用理由
○経済性
○工程
○安全性
○施工性
○環境

現場で 新技術活用



新技術活用後 (A VR)

■実施報告書

■活用効果調査表

新技術活用種別
登録年度(前期)
作成日
発注者名
契約種別(内)
工事期間
新技術施工期間
施工場所
活用理由
○経済性
○工程
○安全性
○施工性
○環境

新技術活用種別
登録年度(前期)
作成日
発注者名
契約種別(内)
工事期間
新技術施工期間
施工場所
活用理由
○経済性
○工程
○安全性
○施工性
○環境

- 新技術活用計画書は、活用する全ての新技術において、作成が必要です。
新技術活用決定後、速やかに作成し、必ず活用前までに登録してください。
- 実施報告書・活用効果調査表は新技術を活用後、速やかに作成し登録してください。
「-VE」技術は、「実施報告書」「調査表」の作成が不要です。

情報種別記号	計画書	報告書	調査表
「-A」 「-VR」	登録	登録	登録
「-VE」	登録	不要	不要

■ **活用が中止**になった場合は**九州技術事務所へ報告**してください！

E-mail : qsr-kyugi-netis@ki.mlit.go.jp

活用効果調査表等作成の実施フロー

調査者（施工者）

調査者（発注者）

九州技術事務所

ID・パスワードの発行

ID・パスワード申請

1工事毎に申請する

ID・パスワード受領

通知
(自動メール)

ID・パスワード申請情報確認

ID・パスワード承認、発行

※ID・パスワードは、
発注者からでも申請できます。

【活用前】
計画書

【発注者指定型】

計画書確認・登録

計画書「記入完了」に☑

連絡
(口頭等)

計画書作成・一時保存

「活用等の型」を忘れずに選択

登録

通知
(自動メール)

記入内容確認

VEの場合

【施工者選定型】

計画書作成・登録

「活用等の型」を忘れずに選択
計画書「記入完了」に☑

通知
(自動メール)

計画書確認

修正あり

修正なし

登録

通知
(自動メール)

NETIS登録

記入内容確認

VEの場合

修正依頼受領

連絡
(口頭等)

修正依頼

【活用後】
実施報告書
活用調査表
(A・VRのみ)

実施報告書、調査表
(施工者用) 作成・登録

実施報告書「記入完了」に☑
調査表「記入完了」に☑

通知
(自動メール)

受注者記入内容確認

修正あり

修正なし

修正依頼

通知
(自動メール)

NETIS登録

修正なし

記入内容確認

修正あり

修正依頼

通知
(自動メール)

修正依頼受領

調査表（発注者用）作成・登録

調査表「記入完了」に☑

【VEについて】

実施報告書、活用効果調査表の作成・登録は不要です。

- 活用効果調査表作成のID・パスワードは1工事毎に申請が必要です。



NETISのトップページから、「活用効果調査表/活用計画書」タブを選択

初めてNETISのHPにアクセスした場合、アンケート画面が表示されます。該当職種をチェックし、注意事項を確認の上、同意に関する「OK」ボタンをクリックしてください。

新技術を探す

検索キーワード or or [職種別頻出キーワード一覧](#)

▼キーワード検索条件を追加

職種

▼職種検索条件を追加

職種検索条件:

有用な新技術の選択

推奨技術 準推奨技術 評価促進

旧実施要領での技術の位置付け

活用促進技術(旧) 設計比較対象

新技術に期待する効果で更に絞り込む

経済性の向上 工程の短縮 品質

周辺環境への影響抑制

この条件で検

※チェックボックス条件は、1つも選ばないと絞込

申請されている従来技術名の検索

試行現場照会一覧

過去に選定された推奨技術・準推奨技術の

初めてアクセスされた方へ

ここでは、初めてNETISホームページにアクセスされた方を対象に、利用者の大まかな属性を把握するための簡単なアンケートを実施しています。利用者個人を特定するためのものではありませんので、ご協力ください。

※Cookieの設定が有効になっていない方は、アクセスする度にこの画面が表示されます。

以下の項目から、あなたの職種に最も近いと思われる分野を選んで下さい。

<input type="radio"/> 土木	<input type="radio"/> 建築	<input type="radio"/> 設備	<input type="radio"/> 電力ガス
<input type="radio"/> 製造	<input type="radio"/> 建設コンサルタント	<input type="radio"/> その他	

NETIS（新技術情報提供システム）利用上の注意事項

- NETIS掲載情報は、当該技術に関する証明、認証その他何らかしらの技術の裏付けを行うものではなく、新技術活用に向けた参考情報といった性格のものであること。
- 特に、申請情報は、技術開発者からの申請に基づく情報であり、その内容について、国土交通省及び評価会議（整備局等）が評価等を行っているものではないこと。また、申請情報のNETIS掲載に伴う苦情、紛争等への対応は、NETIS申請者が行うものであり、国土交通省は何らの責任も負わないこと。
- 評価情報は、当該技術の活用等を行った結果に基づき評価を行ったものであり、個々の現場の条件その他により評価は変わりうる等の性格を有するものであること。
- 新技術の活用は、現場毎の条件の適合性などによる判断に応じて設計・工事担当部署がそれぞれ行うものであり、評価結果に基づき当該技術の活用等の実施が保証されるといった性格のものではないこと。
- 特許権等知的財産権については、関係法令に基づき取り扱われるものであること。

上記内容について同意できる場合は「OK」、同意できない場合は「CANCEL」をクリックして下さい。

NETIS 新技術情報提供システム
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM



新技術の検索 | 登録申請/変更・更新/事前相談 | **活用効果調査表/活用計画書** | テーマ設定型の比較表 | マッチング | 維持管理技術ページ | 震災復旧・復興支援技術ページ | NETIS活用状況データベース | マニュアル/FAQ

事後評価に必要な申請書等です。「公共工事等における新技術活用システム」運用マニュアル等を確認して下さい。

WEB活用効果調査表



次の様式が作成できます。

- 新技術活用計画書・実施報告書
- 活用効果調査表（発注者用）
- 活用効果調査表（施工者用）

- 活用効果調査表の作成にあたっては、「NETIS機能操作マニュアル(オンライン活用効果調査表作成)」を確認してから行ってください。
※マニュアルは適時更新されますのでご注意ください。

活用効果調査表の内容を修正する場合は、[こちら](#)

試行申請

クリック

WEB活用効果調査表の「作成」を選択

次の様式がダウンロードできます。

ログインID

パスワード

ログインID/パスワードをお持ちでない方はこちらから新規登録をお願いします。

[ログインIDパスワードを新規登録](#)

「ログインIDパスワードを新規登録」を選択

ID/パスワードの申請方法 4

ID/パスワードの申請フォーム ログインID/PW新規登録フォーム

活用効果調査表/活用計画書の作成・登録に必要なログインID/パスワードを新規発行します。

以下の内容を入力の上送信してください。

■工事/業務情報

設計書番号 2025891111111111

工事情報参照

受注者名 ●●●● (株)

①入力

①施工会社等の名称を入力

【注意点】国土交通省は発注者なので間違えて入力しない。

組織機関名 九州地方整備局

部署・事務所名 ●●事務所

発注課 ●●課

②正確な情報を入力

【注意点】年度や文字抜けがあります。

工事名/業務名 ●●●●工事

②入力

コリンズ/テクリス番号 0123456789

③入力

③コリンズ番号は10桁の数字を入力

【注意点】設計書番号ではありません。

工事期間 2025/04/14 ~ 2026/03/31

工事/業務の種類 工事

調査者（施工者）氏名 ●● ●●

調査者（施工者）メールアドレス xxxxxxxx@co.jp

④担当職員と事前に打合せの上で職員氏名とメールアドレスを入力

監督者氏名 ○○ ○○

④入力

監督者メールアドレス zzzzzzzz@mlit.go.jp

■調査表/計画書を作成する新技術のNETIS番号

※調査表/計画書を作成する新技術のNETIS番号を1件ずつ入力してください。

※NETIS番号は、情報種別記号「-A」「-VE」等を除く形で入力してください。（例：KT-123456）

※ログインID/PW発行後に調査表/計画書を作成する新技術を追加することも可能です。

技術を追加する

⑥選択

新技術のNETIS番号（1技術目）

QS-2400X

⑤入力

技術活用提案日

⑥技術活用提案日

監督職員へ確認メールを送付します。
確認が取れ次第、ご指定のメールアドレスへID/PWのお知らせメールを送付いたします。

⑦クリック

申請

キャンセル

⑦登録フォームの必要事項を入力し「申請」をクリック

複数の新技術を活用する場合

- 活用技術が複数ある場合は「技術を追加する」ボタンで追加することができます。
- ID/パスワードが発行された後に、技術を追加・削除することも可能です。

■調査表を作成する新技術のNETIS番号

※調査表を作成する新技術のNETIS番号を1件ずつ入力してください。入力いただいたNETIS番号毎に活用効果調査表の入力フォームが発行されます。
※NETIS番号は、情報種別記号「-A」「-VE」等を除く形で入力してください。（例：KT-123456）
※ログインID/PW発行後に調査表を作成する新技術を追加することも可能です。

技術を追加する

新技術のNETIS番号（1技術目）	<input type="text"/>	技術活用提案日	<input type="text"/>	<input type="button" value="削除"/>
新技術のNETIS番号（2技術目）	<input type="text"/>	技術活用提案日	<input type="text"/>	<input type="button" value="削除"/>
新技術のNETIS番号（3技術目）	<input type="text"/>	技術活用提案日	<input type="text"/>	<input type="button" value="削除"/>

追加された技術

技術を追加

ID/パスワード発行のお知らせメール

【NETIS】活用効果調査表/活用計画書入力用（施工者用）ID/PWのお知らせ：●●●●工事

NETIS システム <admin@netis-online.jp>

新技術活用工事
ご担当者様

NETIS 活用効果調査表/活用計画書入力用の ID/PWが発行されましたのでお知らせします。
以下の ID/PW で、活用効果調査表/活用計画書入力用 Web サイトへログインの上、活用効果調査表/活用計画書の入力をお願いします。
※ID/PWはログインに必要となりますので、紛失しないよう保管をお願いします。

【ID/PW】
施工者用 ID np7a5owg PW aa123456

【新技術活用工事情報】
受注者名 ●●●●（株）
組織機関名 九州地方整備局
部署・事務所名 ●●●●事務所
工事名 ●●●●工事
工事のコリンス番号 123456789

【調査表/活用計画書を作成する新技術の NETIS 番号】
●QS-240037
●QS-210009

【活用効果調査表/活用計画書入力用 Web サイト（施工者用）】
[活用効果調査表/活用計画書入力用 Web サイトへ](#)

※このメールは送信専用のメールアドレスからお送りしています。
ご返信いただいても回答はできませんので、ご了承ください。

※このメールにお心当たりがない場合は、誠に恐れ入りますが、
破棄していただきますようお願いいたします。

※NETIS への入力内容、その他運用に関するお問い合わせはこちら
<https://www.netis.mlit.go.jp/netis/publink/puboffices>

※システム障害等に関するお問い合わせはこちら
https://www11.webcas.net/form/pub/netis/online_inquiry_form

発信元: NETIS -新技術情報提供システム-
Copyright 2021, New Technology Information System.All Rights Reserved.

発行されたID/パスワードは、すべての登録が完了するまでは必要ですので、紛失しないように管理をお願いします。

※ID・パスワードを紛失した場合は、再発行が必要です。

- ① 施工者が紛失した場合は、発注者に確認
- ② 発注者が紛失した場合は、九州技術事務所 申請・相談窓口を確認

ID/パスワード発行後のログイン

ID/パスワードによるログイン

➤ ID・パスワードが発行されると、活用効果調査表等の作成が可能になります。

ログインID

パスワード

ログイン キャンセル

クリック

ログインID/パスワードをお持ちでない方はこちらから
新規登録をお願いします。

ログインIDパスワードを新規登録

NETIS

新技术情報提供システム
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

ID/パスワードを入力

工事/業務情報

工事/業務情報・連絡先等の変更

受注者名	●●●●(株)
組織機関名	九州地方整備局
部署・事務所名	●●事務所
工事名	●●●●工事
工事のコリンズ番号	0123456789
反映した設計書番号	

🔍 活用効果調査表/活用計画書の検索

NETIS番号

この条件で検索

作成したい技術の
「活用効果調査表へ」
をクリック

作成対象の活用効果調査表/活用計画書一覧

1~2件目 / 該当2件 表示件数 件

	NETIS番号	技術名	調査表/計画書作成状況※
活用効果調査表/活用計画書へ	QS-24000X	●●●●●●●●工法	施工者作成中
活用効果調査表/活用計画書へ	QS-24000Y	××××工法	施工者作成中

※NETIS番号の末尾記号が「-A」「-VR」となっている技術において、活用計画書のみ登録した場合、調査表/計画書作成状況は「施工者作成中」のままとなります。

活用計画書に加え、実施報告書及び活用効果調査表/活用計画書を登録することで調査表/計画書作成状況が「監督者確認中」となります。

クリック

Prev 1 Next

活用する新技术の追加・削除

ID/パスワード発行後に技術を追加・削除することが可能です。

新技術活用計画書の作成 1

計画書作成の流れ



※120分間でタイムアウトします。作成の都度、一時保存を行ってください。一時保存は画面上部メニュー「一時保存」から行えます。
 ※詳細画面上部の基本項目を変更したい場合は、工事/業務情報画面の「工事/業務情報・連絡先等の変更」ボタンより変更登録をお願いします。
 ・登録内容に関するお問い合わせはこちら
 ・システム操作方法に関するお問い合わせはこちら

技術活用提案日 2025/05/08

登録番号(技術活用提案日時点) QS-24000X - |VE|

新技術名称 ●●●●●●●● 工法

比較する従来技術 ●●●●●

組織機関名 九州地方整備局

部署・事務所名 ●●●●● 事務所

工事名 ●●●●● 工事

工事/業務の種類 工事

活用等の型 型1 型2 型3 型4 型5 型6 型7 型8 型9 型10

※「活用等の型」の選択にあたっては、下記「新技術活用スキーム実施要領」を参照してください。
[新技術活用スキーム実施要領](#)

登録番号(最新) QS-210009 - |VE|

新技術活用計画書 実施報告書 活用効果調査表(施工者用)

自動入力

① 「活用等の型」をリストから選択

③ すべての入力完了後、「記入完了」をチェック

② 「新技術活用計画書」タブの項目を入力

記入完了

※下記項目の記入が完了したら、口記入完了にチェックを入れて、「登録」を押してください。

作成日 ※「新技術活用計画書」の作成日を入力してください

受注者名 (株)

契約額(円)

工事期間 2025/04/18 ~ 2026/03/31

新技術施工期間 ~

施工場所 例) ○○県○○市○○地先(住所でも可)

活用理由

※当該技術を活用した理由を当てる項目について記入してください。(必ず一つはチェックが必要です。)
 ※チェックボックスにチェックがない場合、入力されたコメントはNETISに登録されません。
 ※チェックボックスにチェックがある場合、コメント欄は入力必須です。

経済性 ~により、コストを削減することができるため。

工程 ~により、工程を大幅に短縮することができるため。

品質・出来形 ~により、施工精度および品質の確保が図れるため。

安全性 ~により、危険作業の低減が図られるため。

施工性 ~により、作業が容易になり施工性向上が見込まれるため。

環境 ~により、騒音、振動の低減が図られるため。

その他 ()

コメント欄 (確認者のコメント(赤)、申請者のコメント(青))

申請者が確認者(申請窓口)に伝えたいことがある場合、または確認者(申請窓口)が申請者へ伝えたいことがある場合は、ここにコメントを入力してください。
 図面等のファイルで伝えたい場合は、以下の「ファイルの選択」よりファイルを登録してください。

新技術活用計画書

- ① 「活用等の型」を選択
- ② 「新技術活用計画書」のタブの入力項目を記入
- ③ 「記入完了」をチェック
- ④ 「登録」をクリック

「活用理由」

- ・活用した理由をチェックし、コメントを記入します。
- ・6項目のうち、1項目以上の記入が必須となっています。
- ・チェックした項目はコメント欄を必ず記入してください。
- ・NETIS申請情報の「従来技術との比較」を確認し、向上するとされている項目については、必ずチェックし、コメントを記入してください。
- ・従来技術と比べて向上する活用理由を記入してください。

新技術活用計画書の作成 2

活用する新技術、発注機関などの記入のポイント

NETIS 新技術情報提供システム
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

新技術の検索 | 登録申請/変更・更新/事前相談 | **活用効果調査表/活用計画書** | テーマ設定型の比較表 | マッチング | 維持管理技術ページ | 震災復旧・復興支援技術ページ | NETIS活用状況データベース | マニュアル/FAQ

画面を閉じる | **一時保存** | 印刷・プレビュー | 登録

120分でタイムアウトします。
一時保存を行ってください。

- ※120分間でタイムアウトします。作成の都度、一時保存を行ってください。一時保存は画面上部メニュー「一時保存」から行えます。
 ※詳細画面上部の基本項目を変更したい場合は、工事/業務情報画面の「工事/業務情報・連絡先等の変更」ボタンより変更登録をお願いします。
- ・登録内容に関するお問い合わせは[こちら](#)
 - ・システム操作方法に関するお問い合わせは[こちら](#)

技術活用提案日 2025/05/08

登録番号(技術活用提案日時点) QS-24000X - VE

新技術名称 ●●●●●●●●工法

比較する従来技術 ●●●●●

組織機関名 九州地方整備局

部署・事務所名 ●●●●事務所

工事名 ●●●●●●●●工事

工事/業務の種類 工事

活用等の型

NETIS情報から自動的に入力されます。

新技術を活用する型を選択

※「活用等の型」の選択にあたっては、下記「新技術活用スキーム実施要領」の「3.3.3 活用の実施」及び「3.3.4 活用を促す取組み」を参照して下さい。
[新技術活用スキーム実施要領](#)

登録番号(最新) QS-210009 - VE

※選択ミスが多いので注意！詳細を次ページで紹介

新技術活用計画書の作成 3

活用等の型の選択のポイント

- 活用等の型は、「**施工者選定型（総合評価技術提案）**（**契約後提案**）」「**発注者指定型**」の場合がほとんどです。間違えないように注意してください。

技術活用提案日	施工者選定型（契約後提案）
登録番号(技術活用提案日時点)	施工者選定型（総合評価技術提案） 発注者指定型
新技術名称	発注者指定型（選択肢提示型）
比較する従来技術	試行申請型(発注者指定)
組織機関名	試行申請型(契約後提案)
部署・事務所名	試行申請型
工事名	フィールド提供型
活用等の型	テーマ設定型(技術公募)

※新技術活用システム実施要領で定められたNETIS技術を活用するシステム
新技術活用システム実施要領

登録番号(最新) - A ▾

活用の型は赤枠が主

施工者選定型（契約後提案）
 施工者選定型（総合評価技術提案）
 発注者指定型
 発注者指定型（選択肢提示型）
 試行申請型(発注者指定)
 試行申請型(契約後提案)
 試行申請型
 フィールド提供型
 テーマ設定型(技術公募)

間違えやすいので注意！！

新技術活用計画書の作成 4

工事等の情報の記入のポイント

新技術活用計画書

実施報告書

活用効果調査表（施工者用）

記入完了

※下記項目の記入が完了したら、記入完了にチェックを入れて、「登録」ボタンを押してください。

作成日 **① 選択** ※「新技術活用計画書」の作成日を入力してください

受注者名 ●●●● (株)

契約額(円) **② 入力**

工事期間 2025/04/18 ~ 2026/03/31 **③ 選択**

新技術施工期間 **④ 選択**

施工場所 例) ○○県○○市○○地先（住所でも可） **⑤ 入力**

活用理由 ※当該技術を活用した理由を当てはまる項目について記入してください。
（必ず一つはチェックが必要です。）
※チェックボックスにチェックがない場合、入力されたコメントはNETISに登録されません。
※チェックボックスにチェックがある場合、コメント欄は入力必須です。

経済性 ~により、コストを削減することができるため。

工程 ~により、工程を大幅に短縮することができるため。

品質・出来形 ~により、施工精度および品質の確保が図れるため。

安全性 ~により、危険作業の低減が図られるため。

施工性 ~により、作業が容易になり施工性向上が見込まれるため。

環境 ~により、騒音、振動の低減が図られるため。

その他 ()

その他 ()

コメント欄（確認者のコメント（赤）、申請者の

① 計画書の作成した日をボタンより選択

② 工事（業務）の当初契約額（税込）を入力

③ 工事（業務）の全体工期をボタンより選択

④ 全体工期のうち新技術を活用する期間をボタンより選択

⑤ 施工場所の所在地を記入

申請者が確認者（申請窓口）に伝えたいことがある場合、または確認者（申請窓口）が申請者へ伝えたいことがある場合は、ここにコメントを入力してください。
図面等のファイルで伝えたい場合は、以下の「ファイルの選択」よりファイルを登録してください。

ファイルの選択 ファイルが選択されていません

※工事期間、新技術施工期間は、施工完了後に正確な日付けに修正をお願いします。

実施報告書の作成 1

実施報告書作成の流れ

- 「-A」「-VR」技術は新技術活用後、実施報告書及び活用効果調査表の作成・登録が必要です。
(VE技術は不要)

NETIS NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

新技術の検索 登録申請/変更・更新/事前相談 活用効果調査表/活用計画書 テーマ設定型の比較表 マッチング 維持管理技術ページ 震災復旧・復興支援技術ページ NETISデータ

画面を閉じる 一時保存 印刷・プレビュー 登録

【実施報告書】

新技術活用計画書 実施報告書 活用効果調査表(施工者用)

記入完了

施工概要 内容 全角1000文字以内。

① 「実施報告書」
タブの項目を入力

② 入力完了後、
「記入完了」をチェック

工事全体の内容を記入してください。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

対象数量 全角127文字以内。

新技術の対象数量を記入してください。

例) 掘削工2,000m³

単位は、NETIS 掲載情報「活用効果の根拠」に合わせてください。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

新技術使用箇所 全角127文字以内。

例) 掘削工

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

施工(活用)概要資料 ※活用概要データを添付し

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または

ファイルを選択 選択されていません

・構造が分かる図面などがあれば添付してください。
※NETIS情報等の添付は必要ありません。

実施報告書

- ① 「実施報告書」のタブの入力項目を記入
- ② 「記入完了」をチェック

【実施報告書】
つづき

現場施工条件 各全角1000文字以内。

●現場条件

例) 回収部分のN値は、2～1.3程度。川裏側に一部砕石があり、先行除去作業が必要であった。

●周辺状況(病院、学校、鉄塔の有無等)

例) 改良部より川裏側(L=6.0m付近)に電力会社の鉄塔あり

●自然環境(騒音、振動、水質等)

例) 今回施工した改良部では、地下水、湧水への影響はない。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

障害 施工上で重大な障害や問題が生じたか。

無 有

障害の内容 全角127文字以内。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

作業環境 陸上作業 水上作業 地下作業 水中作業 高所作業

実施報告書の作成 2

施工概要の記入のポイント

実施報告書は新技術活用後に記入してください。

① 内容

新技術を活用した**工事の概要**を記入

② 対象数量

新技術の**工種の数量**を記入
(単位は、NETIS掲載情報に合わせる)

③ 新技術使用箇所

対象数量のうち、新技術を使用した箇所を記入

④ 現場施工条件

新技術を活用した現場条件を記入
(騒音有無や夜間施工等)

⑤ 障害

施工上での重大な障害・問題の有無を選択
「有」の場合は、障害の内容を記入

⑥ 作業環境

新技術を活用した作業環境を選択

① 記入完了
※下記項目の記入が完了したら、□記入完了にチェックを入れて、「登録」ボタンを押してください。

① 工事概要 内容 全角1000文字以内。
例) 舗装工7,000m²、道路改良L=1,000m
工種 (業務) 全体の内容が分かるよう、主要工種のみ記入

② 対象数量 全角127文字以内。対象数量も活用も数量も記入して下さい。
例) △△橋橋梁塗装工3,000m²、足場工1,500m²

③ 新技術使用箇所 全角127文字以内。
例) △△橋P3橋脚 足場工1,000m²

④ 現場施工条件 全角1000文字以内。
●周辺状況 (病院、学校、駅等の有無等) ●自然環境 (騒音、振動、水質等)
例) 山間部 例) 半径50m以内に学校あり 例) 特になし

⑤ 障害 施工上で重大な障害や問題が生じましたか。
○無 ○有
障害の内容 全角127文字以内。

⑥ 作業環境 ○陸上作業 ○水上作業 ○地下作業 ○水中作業 ○高所作業

必須項目ではないため、特に資料を添付する必要はありません

特筆することがない場合、「特になし」と記載してください。

クリックして選択してください。

活用効果調査表の作成 1

□ 記入完了
※下記項目の記入が完了したら、□記入完了にチェックを入れて、「登録」ボタンを押してください。

調査表の全ての項目の記入が完了したら、「記入完了」にチェックしてください。

記入要領

- 全ての調査項目について調査を行って下さい。
ただし、記入者が評価に関係ないか判断した調査項目があれば「当該技術に関連しない項目である」にチェックして下さい。
その場合は、当該調査項目の評価は必要ありません。また、コメント欄にその理由を必ず記入して下さい。
- 調査項目毎に評価点をチェックして下さい(チェックの目安は下表の通り)
- 調査項目の追加が必要な場合はその他(自由設定)欄に記入して下さい。
- 調査項目毎に「優れていた点」「劣っていた点」をチェックして下さい(複数チェックすることも可能です)。
チェックを入れた場合はその補足説明をコメント欄に記入して下さい。また、チェックを入れなかった場合についても、その理由をコメント欄に記入して下さい。
- コメント欄には、**効果調査(5段階評価チェック)の理由を必ず記入して下さい。**
また、当該技術を活用及び活用検討する上での**留意事項等**を記入して下さい。
記入内容は、効果調査の理由や評価の視点でチェックした内容と必ず整合を図って下さい。
必要に応じて定量的なコメントをお願いします。

【ポイント】
活用した新技術が、従来技術に比べて「優れる」か「同等」か「劣る」かを判断してから、どの程度優れているのか、どの程度劣っているのかを上限を目安に判断していただくことで、チェックしやすくなります。

会社名(所属)
記入者氏名
連絡先 (TEL)

左記のチェックの目安を参考に定性的5段階評価をお願いします。

経済性

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる		
○1	○2	○3	○4	○5

● 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

優れていた点

- 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため
- 作業人員が減少したため
- 仮設費が減少したため
- 施工日数が短縮したため
- 施工量が想定数量より多かったため
- 維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点

- 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため
- 作業人員が増加したため
- 仮設費が増加したため
- 施工日数が延長したため
- 施工量が想定数量より少なかったため
- 維持管理費の増加が見込まれるため

誤字チェック 凡例: [チェック対象文字](#), [修正候補](#)
誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

【経済性の評価】

- ・定性的5段階評価をお願いします。
- ・コメントは必ず記入してください。

工程

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる		
○1	○2	○3	○4	○5

● 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

優れていた点

- 施工日数が短縮したため
- 工程計画が組みやすかったため
- 予定工程どおりに進捗したため
- 施工性が向上したため
- 仮設が減少したため
- 維持管理にかかる日数の減少が見込まれるため

劣っていた点

- 施工日数が延長したため
- 工程計画が組みづかったため
- 予定工程どおりに進捗しなかったため
- 施工性が劣るため
- 仮設が増加したため
- 維持管理にかかる日数の増加が見込まれるため

誤字チェック 凡例: [チェック対象文字](#), [修正候補](#)
誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

【工程の評価】

- ・定性的5段階評価をお願いします。
- ・コメントは必ず記入してください。

品質・出来形

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる		
○1	○2	○3	○4	○5

● 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

優れていた点

- 品質が向上したため
- 出来形・精度が向上したため
- 耐久性が向上する構造になったため
- 品質・出来形の管理項目が減少したため
- 品質・出来形の管理頻度が減少したため

劣っていた点

- 品質が低下したため
- 出来形・精度が低下したため
- 耐久性が劣る構造になったため
- 品質・出来形の管理項目が増加したため
- 品質・出来形の管理頻度が増加したため

誤字チェック 凡例: [チェック対象文字](#), [修正候補](#)
誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

【品質・出来形の評価】

- ・定性的5段階評価をお願いします。
- ・コメントは必ず記入してください。

安全性

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる		
○1	○2	○3	○4	○5

● 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

優れていた点

- 墜落・転落事故の危険性が減少したため
- 雷撃災害の危険性が減少したため
- 飛来・落下物災害の危険性が減少したため
- 作業環境(騒がり・騒音・振動作業等)が向上したため
- 危険物の取扱が減少したため

劣っていた点

- 墜落・転落事故の危険性が増加したため
- 雷撃災害の危険性が増加したため
- 飛来・落下物災害の危険性が増加したため
- 作業環境(騒がり・騒音・振動作業等)が悪化したため
- 危険物の取扱が増加したため

誤字チェック 凡例: [チェック対象文字](#), [修正候補](#)
誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

【安全性の評価】

- ・定性的5段階評価をお願いします。
- ・コメントは必ず記入してください。

施工性

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる		
○1	○2	○3	○4	○5

● 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

優れていた点

- 現場での施工が減少したため
- 仮設工が減少したため
- 作業員の作業が容易になったため
- 熟練度に依存した作業が減少したため
- 施工の機械化が向上したため
- 施工時の制約条件が減少したため

劣っていた点

- 現場での施工が増加したため
- 仮設工が増加したため
- 作業員の手間が増えたため
- 熟練度に依存した作業が増加したため
- 施工の機械化が低下したため
- 施工時の制約条件が増加したため

誤字チェック 凡例: [チェック対象文字](#), [修正候補](#)
誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

【施工性の評価】

- ・定性的5段階評価をお願いします。
- ・コメントは必ず記入してください。

環境

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる		
○ 1	○ 2	○ 3	○ 4	○ 5

※当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

漢字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補
漢字・脱字チェックの結果をここに表示します

優れていた点

- 周辺環境への影響(大気・土壌・水質汚染)が減少したため
- 騒音・振動・粉塵等作業環境が改善したため
- 周辺の自然・生態環境・景観との調和が向上したため
- 産業廃棄物の発生量が減少したため(リサイクル性が向上したため)
- 省エネルギー・省資源化が向上したため

劣っていた点

- 周辺環境への影響(大気・土壌・水質汚染)が悪化したため
- 騒音・振動・粉塵等作業環境が悪化したため
- 周辺の自然・生態環境・景観との調和が低下したため
- 産業廃棄物の発生量が増加したため(リサイクル性が低下したため)
- 省エネルギー・省資源が低下したため

【環境の評価】

・ 定性的5段階評価をお願いします。

・ コメントは必ず記入してください。

上記項目の他に評価事項がある場合は本項目にて評価を行って下さい。優れていた点、劣っていた点はコメント欄へ具体的に記載して下さい。

その他

タイトル 全角20文字以内。

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる		
○ 1	○ 2	○ 3	○ 4	○ 5

※当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

漢字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補
漢字・脱字チェックの結果をここに表示します

【その他】

前述の6項目以外で新たな「調査項目」が必要と記入者が判断した場合は、その他の項目に記入してください

その他

タイトル 全角20文字以内。

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる		
○ 1	○ 2	○ 3	○ 4	○ 5

※当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

漢字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補
漢字・脱字チェックの結果をここに表示します

総合的所見

NETIS掲載情報の「期待される効果」に対して、活用した結果はどうでしたか

優れていた所 全角1000文字以内。

漢字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補
漢字・脱字チェックの結果をここに表示します

劣っていた所 全角1000文字以内。

漢字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補
漢字・脱字チェックの結果をここに表示します

留意する所 全角1000文字以内。

【総合的所見】

・ コメントは必ず記入してください。

漢字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補
漢字・脱字チェックの結果をここに表示します

当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか

適切であった 適切でなかった

適切でなかった場合、どんな従来技術と比較したらよいか、従来技術名を記入して下さい 全角127文字以内。

今後、当該技術を活用できる工事の場合に活用しますか

今後は是非活用したい 活用を検討したい 場合によっては活用することもある 技術の改良を強く望む

理由 全角127文字以内。

漢字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補
漢字・脱字チェックの結果をここに表示します

当該技術について改良点・要望・その他ご意見ありましたら自由に記入して下さい 全角1000文字以内。

漢字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補
漢字・脱字チェックの結果をここに表示します

施工状況等の写真 ※写真ファイルには、サイズ300×200程度のJPEG形式またはJPEG形式の画像ファイルを選択してください。

写真1 写真2 写真3

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または
[ファイルを選択] 選択されていません

登録済み写真名:
※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

写真のタイトルを記入してください。

【施工状況等の写真】

新技術に活用状況が分かる写真（施工状況、使用材料、計測状況、完了等）を添付してください。

写真のタイトルを記入してください。

記入完了 ※「活用効果調査表（施工者用）」の記入が完了したら、チェックを入れて下さい。

会社名(所属)

記入者氏名

連絡先 (TEL)

該当する項目をチェック

コメント欄 (確認者のコメント (赤)、申請者のコメント (青))

経済性

① 効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3
<input type="radio"/> 4	<input checked="" type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6

○当該技術に関連しない項目である

③ コメント 全角1000文字以内。

(例)
ベースマシンがバックホウタイプで小型であることから、機械経費・人件費が安価となり、仮設足場材（敷鉄板）に要する費用が減少し、施工日数が短縮できたという理由で非常に優れている。

②

優れていた点

- 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため
- 作業人員が減少したため
- 仮設費が減少したため
- 施工日数が短縮したため
- 施工量が想定数量より多かったため
- 維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点

- 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため
- 作業人員が増加したため
- 仮設費が増加したため
- 施工日数が延長したため
- 施工量が想定数量より少なかったため
- 維持管理費の増加が見込まれるため

監督職員とテキストでやりとりする場合に使用

比較する従来技術と比べて判断し、優劣などの5段階評価を必ず、クリックして選択

所見として、【効果調査】、【優れていた点】あるいは【劣っていた点】の理由を必ず記入。

コメントを入力してください

活用効果調査表

評価項目のチェックポイント

- ①効果調査（優れる、同等、劣る）
- ②優れていた点、劣っていた点
- ③①②とした理由のコメント

【活用効果調査表】の総合的所見との記載
【活用計画書】の活用理由の記載

整合は取れているか？

【活用効果調査表】

経済性

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる		
<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input checked="" type="radio"/> 5	

◎ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

従来技術より軽量の為、1日当たりの施工量が増加することにより、機械経費及び人件費の削減が図れ、施工日数も短縮できたため、経済性は優れている。

優れていた点

- 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため
- 作業人員が減少したため
- 仮設費が減少したため
- 施工日数が短縮したため
- 維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点

- 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため
- 作業人員が増加したため
- 仮設費が増加したため
- 施工日数が延長したため
- 施工量が想定数量より少なかったため
- 維持管理費の増加が見込まれるため

※コメントは必ず記入してください。

【コメント】

効果調査の理由を必ず記入してください。
効果調査の理由や評価の視点との整合を図ってください。

【効果調査】

「5段階」で必ず評価してください。

工程

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる		
<input type="radio"/> 1	<input checked="" type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	

◎ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

施工性の向上により敷設に要する日数が従来技術よりも短縮したため、工程は優れている。

優れていた点

- 施工日数が短縮したため
- 工程計画が組みやすかったため
- 予定工程どおりに進捗したため
- 施工性が向上したため
- 仮設が減少したため
- 維持管理にかかる日数の減少が見込まれるため

劣っていた点

- 施工日数が延長したため
- 工程計画が組みづらかったため
- 予定工程どおりに進捗しなかったため
- 施工性が劣るため
- 仮設が増加したため
- 維持管理にかかる日数の増加が見込まれるため

「優れていた点」「劣っていた点」に該当する項目があれば
チェックしてください。

【不整合例】：効果調査と項目チェックとコメントの不整合
効果調査、劣る「2」にチェックしている。
優れていた点の2か所の項目にチェックしている。
コメントは「優れている」と記載している。

活用効果調査表の作成 5

評価項目の記入のポイント

活用効果調査表は受注者の作成後、発注者は、記入内容を確認し、発注者用を作成してください。

- 『比較する従来技術』と比較して評価する。
- 6項目（経済性・工程・品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）について、必ず評価する。

① 効果調査

比較する従来技術と比べて判断し、優劣などの「5段階評価」を必ずチェック

※活用効果調査表の評価を行う6項目について、「当該技術に関連しない項目である」は選択しない。

② 調査の視点

該当する項目がない場合、近い内容をチェック「優れていた点・劣っていた点」に該当する項目場合は、がなかったことも記載
※コメントにおいて、優れている点や劣っている点を具体的に記載。

③ コメント

所見として、コメント（評価の理由）は評価にかかわらず必ず記入

① 効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3
<input type="radio"/> 4	<input checked="" type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6

○当該技術に関連しない項目である

③ コメント 全角1000文字以内。

(例)
ベースマシンがバックホウタイプで小型であることから、機械経費・人件費が安価となり、仮設足場材（敷鉄板）に要する費用が減少し、施工日数が短縮できたという理由で非常に優れている。

誤字チェック 凡例： チェック対象文字。

修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

② 調査の視点

優れていた点

- 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため
- 作業人員が減少したため
- 仮設費が減少したため
- 施工日数が短縮したため
- 施工量が想定数量より多かったため
- 維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点

- 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため
- 作業人員が増加したため
- 仮設費が増加したため
- 施工日数が延長したため
- 施工量が想定数量より少なかったため
- 維持管理費の増加が見込まれるため

記入漏れや評価に矛盾がないよう発注者は必ずチェックしてください。

また、施工者の評価と発注者の評価が大きく異なることがないように評価に当たっては施工者と発注者の間で十分調整を図ってください。

活用効果調査とコメントの不整合について

不整合の例

効果調査は「5」（優れる）にチェックされているが、調査の視点で「劣っていた点」の項目にチェックされている。コメントは「劣っていた」との理由が記載されていることから、不整合である。

【活用効果調査表】

経済性

効果調査					調査の視点	
従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる		優れていた点	
○ 1	○ 2	○ 3	○ 4	● 5	<input type="checkbox"/> 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため <input type="checkbox"/> 作業人員が減少したため <input type="checkbox"/> 仮設費が減少したため <input type="checkbox"/> 施工日数が短縮したため <input type="checkbox"/> 施工量が想定数量より多かったため <input type="checkbox"/> 維持管理費の減少が見込まれるため	<input checked="" type="checkbox"/> 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため <input type="checkbox"/> 作業人員が増加したため <input type="checkbox"/> 仮設費が増加したため <input type="checkbox"/> 施工日数が延長したため <input type="checkbox"/> 施工量が想定数量より少なかったため <input type="checkbox"/> 維持管理費の増加が見込まれるため
○ 当該技術に関連しない項目である					劣っていた点	
コメント 全角1000文字以内。						
製品単価が効果であるため経済性は劣っていた。						

「5（優れる）」にチェック

不整合

不整合

経済性

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる		
○1	○2	○3	○4	●5	

○当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

経済性は、ベースマシンがバックホウタイプで小型であることから、機械経費・人件費が安価となり、仮設足場材（敷鉄板）に要する費用が減少し、施工日数が短縮できたという理由で非常に優れている。

(全体的に優れている点をコメント)

優れていた点

- 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため
- 作業人員が減少したため
- 仮設費が減少したため
- 施工日数が短縮したため
- 施工量が想定数量より多かつたため
- 維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点

- 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため
- 作業人員が増加したため
- 仮設費が増加したため
- 施工日数が延長したため
- 施工量が想定数量より少なかったため
- 維持管理費の増加が見込まれるため

優れた点が多く評価が「5」の例

工程

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる		
○1	○2	○3	○4	●5	

○当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

工程は、地盤改良に要する日数が、当初8日間を予定していた日程が4日間（1/2）になり、施工日数を短縮できるという理由で非常に優れていた。

(1項目がいかに優れていたかを具体的にコメント)

優れていた点

- 施工日数が短縮したため
- 工程計画が組みやすかつたため
- 予定工程どおりに進捗したため
- 施工性が向上したため
- 仮設が減少したため
- 維持管理にかかる日数の減少が見込まれるため

劣っていた点

- 施工日数が延長したため
- 工程計画が組みやすかつたため
- 予定工程どおりに進捗しなかつたため
- 施工性が劣るため
- 仮設が増加したため
- 維持管理にかかる日数の増加が見込まれるため

優れた点は1項目だが評価が「5」の例

『調査項目の効果調査が「1」～「5」』のコメント事例

- コメントは、評価に至った理由である を具体的に記入し、文末は、下記の文例を参考にしてください。

効果調査が「5」の場合

経済性
工程
品質・出来形
安全性
施工性
環境

は、

.....

という理由で

非常に優れている。
極めて向上した。
大幅に〇〇を削減できた。
特に〇〇が高い。
〇〇及び△△が非常に減少した。
〇〇が大幅に減少した。

効果調査が「4」の場合

経済性
工程
品質・出来形
安全性
施工性
環境

は、

.....

という理由で

優れている。
向上した。
やや優れている。
少し向上した。
僅かに〇〇を削減できた。
〇〇がやや減少した。

効果調査が「3（同等）」の場合

経済性
工程
品質・出来形
安全性
施工性
環境

は、

.....

という理由で

同程度である。
変わらない。
ほぼ同等と考える。
影響が無かった。
問題はない。
大差はない。

- コメントは、評価に至った理由である を具体的に記入し、文末は、下記の文例を参考にしてください。

効果調査が「2」の場合

経済性
工程
品質・出来形
安全性
施工性
環境

は、 という理由で

劣る。
低下した。
やや劣る。
少し低下した。
僅かに〇〇が増加した。
〇〇がやや増加した。

効果調査が「1」の場合

経済性
工程
品質・出来形
安全性
施工性
環境

は、 という理由で

非常に劣る。
極めて低下した。
大幅に〇〇が増加した。
特に〇〇が低い。
〇〇及び△△が非常に増加した。
〇〇が大幅に増加した。

『調査項目のコメント』を特に重視すべき具体的な事例

➤ 以下のような事例では、**修正依頼**や**ヒアリング**をお願いする場合があります。

調査の視点では、（優れていた点：2）＞（劣っていた点：1）であるが、効果調査は「2」でありコメントもマイナス評価となっている。

効果調査				
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる		
○ 1	● 2	○ 3	○ 4	○ 5

○ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

「2」 **2箇所**

機械経費が高いため経済性は劣る。(×)

より具体的に **1箇所**

優れていた点	
<input type="checkbox"/>	機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため
<input checked="" type="checkbox"/>	作業人員が減少したため
<input type="checkbox"/>	仮設費が減少したため
<input checked="" type="checkbox"/>	施工日数が短縮したため
<input type="checkbox"/>	施工量が想定数量より多かったため
<input type="checkbox"/>	維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点	
<input checked="" type="checkbox"/>	機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため
<input type="checkbox"/>	作業人員が増加したため
<input type="checkbox"/>	仮設費が増加したため
<input type="checkbox"/>	施工日数が延長したため
<input type="checkbox"/>	施工量が想定数量より少なかったため
<input type="checkbox"/>	維持管理費の増加が見込まれるため

コメントが簡素であるために、調査の視点の重みが判断できません。より具体的なコメントをお願いします。

例：作業人員と施工日数は削減できたものの、機械経費が非常に高くなったため、総合的には従来技術と比較して、経済性は劣る。(○)

調査の視点では、優れていた点に多く（4箇所）のチェックが付いているが、効果調査は「4」となっている

効果調査				
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる		
○ 1	○ 2	○ 3	● 4	○ 5

○ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

「4」 **4箇所**

施工性は向上している。(×)

より具体的に

優れていた点	
<input checked="" type="checkbox"/>	現場での施工が減少したため
<input checked="" type="checkbox"/>	仮設工が減少したため
<input checked="" type="checkbox"/>	作業員の作業が容易になったため
<input type="checkbox"/>	熟練度に依存した作業が減少したため
<input checked="" type="checkbox"/>	施工の機械化が向上したため
<input type="checkbox"/>	施工時の制約条件が減少したため

劣っていた点	
<input type="checkbox"/>	現場での施工が増加したため
<input type="checkbox"/>	仮設工が増加したため
<input type="checkbox"/>	作業員の手間が増えたため
<input type="checkbox"/>	熟練度に依存した作業が増加したため
<input type="checkbox"/>	施工の機械化が低下したため
<input type="checkbox"/>	施工時の制約条件が増加したため

多くの項目で優れているが、それぞれの項目の重みは僅かであるために、総合的には「4」となったことが伝わるようなコメントをお願いします。

例：仮設の減少により現場での施工が減少し、さらに機械化により作業員の作業が容易になったことから、従来技術と比較して施工性はやや優れている。(○)

活用効果調査にあたっての留意点

- 活用効果調査にあたっては、NETIS申請情報「活用の効果」の内容を確認し、技術特性を十分理解し、適切な評価となるよう留意してください。
- **活用効果調査表の評価は、NETIS記載の従来技術と比較してください。**

■調査表記載にあたっての主な留意点

経済性：新技術の導入コストだけでなく、工期短縮などに伴う、人件費、管理費、仮設費用などのコスト含めて総合的な観点から評価をお願いします。

工 程：技術導入による施工期間での評価をお願いします。

品質・出来形：施工性の視点（現場での施工や作業が容易など）での評価ではなく、目的物の品質や出来形が向上する視点（耐久性向上・現場での管理項目など）での評価としてください。

安全性：今回の現場施工中による効果での評価をお願いします。
施工後の新技術の導入効果は評価しないようお願いします。

従来技術も影響を与えないあるいは変化がない場合の評価は「同等（3点）」の評価となります。

5段階評価を必ず行ってください。

活用効果調査表（総合的所見）の作成

総合的所見の記入のポイント

新技術活用後に記入してください。

①優れていた所

従来技術と比較して、優れていた点を記入

②劣っていた所

従来技術と比較して、劣っていた点を記入

③留意する所

新技術を活用する際に、特に留意すべき点を記入

④アンケート項目

該当する項目を選択し、回答。

⑤従来技術名

比較する従来技術が適切でなかった場合、
比較すべき従来技術を記入

⑥今後の当該技術活用の理由

該当する項目を選択し、「理由」も必ず記入

⑦改善点・要望・その他

改善点等がある場合は、自由に記入。

⑧施工状況等の写真

施工者が作成します。発注者による作成は不要です。
写真ファイルは、2MB（300×200pixel）程度のGIF形式またはJPEG形式としてください。

総合的所見

① NETIS掲載情報の『期待される効果』に対して、活用した結果はどうか

優れていた所 全角1000文字以内。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

② 劣っていた所 全角1000文字以内。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

③ 留意する所 全角1000文字以内。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

④ 当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか

適切であった 適切でなかった

適切でなかった場合、どんな従来技術と比較したらよいか、従来技術名を記入して下さい 全角127文字以内。

⑥ 今後、当該技術を活用できる工事の場合に活用しますか

今後も是非活用したい 活用を検討したい 場合によっては活用することもある 技術の改良を強く望む

理由 全角127文字以内。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

⑦ 当該技術について改良点・要望・その他ご意見ありましたら自由に記入して下さい 全角1000文字以内。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

施工状況等の写真

*写真ファイルには、サイズ300×200程度のGIF形式またはJPEG形式の画像ファイルを指定してください。

⑧

写真1

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または

ファイルの選択 ファイルが…れていません

登録済み写真名:

*画像サイズは2MBまでのものとしてください。

写真2

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または

ファイルの選択 ファイルが…れていません

登録済み写真名:

*画像サイズは2MBまでのものとしてください。

写真3

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または

ファイルの選択 ファイルが…れていません

登録済み写真名:

*画像サイズは2MBまでのものとしてください。

活用効果調査にあたってのアドバイス

▶ 活用効果調査表等は、発注者と施工者がNETISシステム上で作成します。

■新技術活用計画書

- ・「計画書」は、活用する全ての新技術において、作成が必要です。
新技術活用決定後速やかに作成し、必ず**活用前**までに登録してください。

■実施報告書・活用効果調査表

- ・「実施報告書」「調査表」は新技術を**活用後**、速やかに作成し登録してください。
- ・「-VE」技術は、「実施報告書」「調査表」の**作成は不要**です。

■活用が中止になった場合は、システムから削除のうえ、九州技術事務所に報告してください！
E-mail : qsr-kyugi-netis@ki.mlit.go.jp

【 VE技術 】

【活用前】

■計画書

施工者
計画書作成・登録

調査表/計画書作成状況
施工者作成中

監督員へ
内容確認メール送信

発注者
内容確認・登録

調査表/計画書作成状況
監督職員確認中

技術事務所
内容確認・登録

調査表/計画書作成状況
確認者確認中

登録済み

調査表/計画書作成状況
公開済

【 A/VR技術 】

【活用前】

■計画書

施工者
計画書作成・登録

調査表/計画書作成状況
施工者作成中

監督員へ
内容確認メールは
送信されません

【活用後】

■実施報告書・活用効果調査表

発注者
実施報告書・調査表作成
登録

調査表/計画書作成状況
施工者作成中

監督員へ
内容確認メール送信

発注者
内容確認・調査表作成
登録

調査表/計画書作成状況
監督職員確認中

技術事務所
内容確認・登録

調査表/計画書作成状況
確認者確認中

活用効果調査表等の作成にあたってのまとめ

1. NETISの原則義務化

- ・直轄工事においては、**原則1技術以上の新技術**を活用しなければならない。

2. ID、パスワードの申請

- ・活用効果調査表作成の**IDとパスワードは1工事毎**に申請が必要です。紛失しないよう保管を！

3. 新技術活用計画書、実施報告書および活用効果調査表の作成について

3-1. 保存について

- ・**120分でタイムアウト**するため一時保存を行ってください。

3-2. 計画書の作成について（活用前）

- ・**活用等の型**を忘れずに選択してください。
- ・計画書を作成し、**「記入完了」に☑して登録**してください。

3-3. 「A」「VR」技術について（活用後）

- ・実施報告書を作成し**「記入完了」に☑**してください。
- ・活用効果調査表は、評価項目6項目は必ず「5段階評価」を行い、すべての項目のコメントを記入してください。
- ・活用効果調査表を作成し **「記入完了」に☑して登録**してください。

3-4. 「VE」技術について（活用後）

- ・**実施報告書、活用効果調査表の作成・登録は不要**です。

※活用効果調査表等は登録完了後は修正できないので、よく確認して登録してください。

九州技術事務所HPの「新技術情報/NETIS」に調査表等の作成に関する情報を掲載しています。

九州技術事務所ホームページ
<http://www.qsr.mlit.go.jp/kyugi/>



新技術情報／NETIS

こちらをクリック！



活用 (活用計画書・報告書および活用効果調査表)

NETIS (新技術情報提供システム) とは？

NETISは、国土交通省が運営する新技術の情報共有システムです。直轄工事や業務における新技術の活用を促進し、コスト削減や工期短縮などとしています。

九州技術事務所では、NETISの登録と活用調査表の作成や工法比較支援、活用促進に向けた説明会等に取り組んでいます。

- NETIS新規登録/変更・更新 (開発される方)
- NETIS活用調査表等作成 (工事、業務で活用される方)
- 工法比較データベース (設計業務される方)
- 参考資料 (マニュアル等)
- イベント・説明会
- 技術の紹介

こちらをクリック！

新技術活用効果調査表のコメント事例集
 操作マニュアル

ホーム / NETIS / NETIS活用調査表等作成 (工事、業務で活用される方)

国土交通省発注工事の施工者、発注者向けページです。
 直轄工事にてNETISを活用した場合、活用した技術をNETISに登録が必要です。
 また、活用する技術 (A・VR・VE) によって作成する内容 (活用計画書・実施報告書・活用効果調査表) が異なりますので以下の内容を確認のうえ、作成してください。

NETIS登録技術活用の流れについて

- 新技術活用の流れ

「活用調査表等」の作成について

- 活用効果調査表作成の実施フロー・作成手順
- 工事・業務で提出する活用計画書・実施報告書・活用効果調査表の作成はこちらから【外部サイトへ】

コメント事例集

活用効果調査表のコメント事例集

- 活用効果調査票の6項目の評価について

【参考】作成にあたっては下記作成例をご参考ください。

- 『調査項目の効果調査が「1」～「5」』のコメント事例
- 『調査項目のコメント』を特に重視すべき具体的な事例
- 『調査項目の効果調査が「当該技術に関連しない」』のコメント事例
- 『今後、該当技術を活用できる工事の場合に活用しますか。』の理由事例

※活用効果調査表作成にあたっては、操作マニュアルを確認してから行ってください。

- 操作マニュアル【外部サイト】
- よくある質問

操作マニュアル

参考資料

1. NETIS情報の検索と閲覧
2. 活用効果調査表等の作成
3. 九州地整管内の活用件数の多い技術
(工種分類：CALS関連技術, 調査試験)

令和6年度に九州地方整備局管内において活用された新技術は、以下のとおりです。

番号	NETIS登録番号	技術名	副題	工種	有用な技術 (令和7年4月現在)	活用効果評価結果					
						経済性	工程	品質	安全性	施工性	環境
1	KT-230048-VE	小黑板電子化アプリ「SiteBox」	現地形状等の略図作成、注釈表記が可能な電子黑板に関するアプリケーション技術	CALS関連技術		C	B	-	-	B	-
2	QS-190005-VE	現場クラウド One_現場支援機能サービス	現場の生産性向上を高める情報共有システム	CALS関連技術		B	B	-	B	B	B
3	KK-210003-VE	データ共有クラウドサービス「CIMPHONY Plus」	工事で活用する写真や3次元データを時間軸と位置情報で管理。3次元地図上に可視化して現場空間を再現し、状況や進捗の確認・共有を支援するデータ共有クラウドサービスです。	CALS関連技術	活用促進	B	B	B	B	B	-
4	QS-150021-VE	自然災害防災システム ZEROSAI	建設現場に設置した気象観測器から観測データをリアルタイムに収集し、クラウド上で高精度な気象予測とともに管理を行う。合わせて電光掲示板で作業員へも迅速かつ確実に気象情報を伝達するシステム。	調査試験		C	C	C	B	C	C
5	KT-240010-A	電子小黑板入力支援アプリ「黑板作成・連携ツール」	現場デバイス(弊社無償アプリ「どこでも写真管理Plus」をインストールしたスマートフォン)で電子小黑板データ入りの写真を撮影、さらにPC上で電子小黑板データの入力支援を行なうことにより、現場デバイス上での作業を最小限に抑えるアプリ	CALS関連技術		事後評価未実施					
6	CB-220022-VE	遠隔臨場SiteLive	建設現場の遠隔臨場撮影・配信システム	CALS関連技術		B	B	C	B	B	B
7	QS-190035-VE	FMR スキャナー(高速移動路面3Dスキャナー)による路面調査	高速移動でスキャナーした車道の画像を使用した路面管理システム	調査試験	活用促進	B	B	C	B	B	B
8	KK-210022-VE	環境計測サービス「みまわり伝書鳩」	工事現場等に設置された環境センサーで計測したデータを遠隔で監視し、異常値が発生した場合は、回転灯等による警告やメールで関係者に連絡することができる現場計測管理サービス。	調査試験		B	C	C	B	B	-
9	KT-230078-VE	遠隔臨場システム「GENBA-Remote」	インターネットを介して遠隔地に臨場しなくてもリアルタイムに映像と音声で確認できる情報共有のシステム	CALS関連技術		C	B	-	C	B	-
10	KK-160040-VE	受発注者間の情報共有システム「電納ASPer(データ保管サービス)」	工事施工(業務)中における受発注者間の幅広い情報共有に加え、過去工事のデータをシステム(サーバ内)に蓄積し受発注者間で共有できるサービス	CALS関連技術		B	B	-	-	C	C
11	KK-220044-VE	自動合成機能を搭載した地上型レーザースキャナーシステム	自動合成/スキャン毎セルフオートキャリブレーション	調査試験		B	B	C	C	B	C
12	KT-190097-VE	傾斜監視クラウドシステム(OKIPPA)	センサボックスだけで始められる傾斜監視クラウドシステム	調査試験	活用促進	B	B	C	B	B	B

A 従来技術より極めて優れ B 従来技術より優れる C 従来技術と同等 D 従来技術より劣る

令和6年度に九州地方整備局管内において活用された新技術は、以下のとおりです。

番号	NETIS登録番号	技術名	副題	工種	有用な技術 (令和7年4月現在)	活用効果評価結果					
						経済性	工程	品質	安全性	施工性	環境
13	HR-190001-VE	工事写真 黒板自動解析システム	自動解析専用黒板に記載された手書き文字を自動解析し、工事写真の自動振り分けと施工管理情報の自動入力を行う工事写真管理ソフトウェア	CALS関連技術		B	B	C	C	B	C
14	KK-230048-A	スマートフォンによる道路点検DXシステム「GLOCAL-EYEZ」	スマートフォンにより道路パトロールと路面点検の両方を同時に実施できるシステム	調査試験	活用促進	事後評価未実施					
15	KT-170007-VE	アンカーボルト引張荷重の一体型試験測定システム(テクノテスターシリーズ)	引張り試験からデータ管理まで簡便に行える一体型アンカーボルト引張荷重確認試験機	調査試験	活用促進	B	B	B	C	B	C
16	KT-170064-VE	移動体計測技術を用いたUAV空中測量システム	移動体計測技術を用いてUAV搭載機器の位置情報を取得することにより、UAV空中測量作業の効率化を図るシステム	調査試験	活用促進	B	B	C	C	B	C
17	CG-190014-VE	道路区画線健全度診断システム	スマホとAIを用いた簡単で安全で定量的な区画線調査技術 RoadViewer(ロードビューアー)	調査試験	活用促進	B	B	B	B	A	B
18	KT-150010-VE	高精度MMSでスイスイ3D現況測量	車両や船などで移動しながら同時に3D測量を行うとともに、その測量データを補正して精度を高めるシステム	調査試験	活用促進	B	A	B	B	B	B
19	KT-160005-VE	RICOH Drive 電子黒板アプリ(スマートデバイス用)	現場写真撮影時に電子小黒板画像及び黒板情報をデジタル写真に表示、埋め込むことが可能なスマートデバイスアプリ	CALS関連技術		B	B	C	B	B	C
20	KT-180029-VE	センチメートル級精度の対空標識「エアロボマーカー」	標定点・検証点に置くだけでセンチメートル級精度の測量を可能にした対空標識システム	調査試験	R7推奨活用促進	B	B	C	B	B	-
21	KT-230192-A	UAV画像によるクラウド型写真測量サービス「KUMIKI」	空撮画像から地形データを自動生成し、クラウド上で距離、体積、断面等を計測、情報共有が可能なシステム	調査試験		事後評価未実施					
22	KT-230245-A	振動モニタリングシステム「揺れウォッチャー」	振動を見える化して工事振動の発生を抑制するシステム	調査試験		事後評価未実施					
23	KT-230271-A	歩くだけで3次元測量が可能なSLAM技術ハンディスキャナ「X120GO 3D SLAM レーザースキャナ」	3台のカメラ搭載とLiDAR SLAM技術により簡単に地形の3次元測量データを取得できる測量技術	調査試験		事後評価未実施					
24	QS-200050-VE	水位・水質・気象データ等クラウド監視システム「わかるくん」	リアルタイムデータ収集・配信プラットフォーム	調査試験		C	C	B	B	B	C

A 従来技術より極めて優れ B 従来技術より優れる C 従来技術と同等 D 従来技術より劣る

令和6年度に九州地方整備局管内において活用された新技術は、以下のとおりです。

番号	NETIS登録番号	技術名	副題	工種	有用な技術 (令和7年4月現在)	活用効果評価結果					
						経済性	工程	品質	安全性	施工性	環境
25	HR-180003-A	RPDIによる岩盤の多方向動的貫入試験	岩盤の水平・傾斜方向の測定とコア試料の採取が同時にできるロータリーパーカッションドリルを利用した動的貫入試験方法	調査試験		事後評価未実施					
26	KK-170002-VE	配管用RI密度計PIRICA	サンプリング不要の配管用密度計	調査試験		C	C	B	C	B	C
27	KK-200009-VE	溶接部ビード計測用3Dハンディスキャナ脚長計測パッケージ「CSM-HSシリーズ」	レーザー光をあてるだけで溶接ビードの断面を非接触で計測・記録できる現場支援ツール	調査試験	活用促進	B	B	B	-	B	-
28	KK-220075-A	測量美術	3次元測量の混合技法による路面性状の現状把握および舗装修繕工事用の図面作成	調査試験		事後評価未実施					
29	KT-150040-VE	コンクリート構造物内の埋設物非破壊探査装置	埋設物の位置検出性能改善により、コンクリート構造物の埋設物探査を容易にした非破壊探査装置	調査試験		C	C	B	C	C	C
30	KT-160111-VE	プロテスターTRシリーズ	あと施工アンカーボルト引張荷重確認試験機	調査試験	活用促進	B	B	B	B	A	C
31	KT-180043-VE	クラウド計測システム『クラウド16』	各種計測機器データのクラウド一括管理システム	調査試験	活用促進	A	-	B	A	-	-
32	KT-200062-VE	フォトラクション	建築現場を「見える化」して生産性と品質を向上させる生産支援クラウド	CALS関連技術	活用促進	B	B	B	-	B	B
33	KT-220059-A	ハイパー・スタッキング機能を有したデジタル型の地中レーダアンテナ	深層部でも鮮明で高品質なデータの取得を可能にした地中レーダのデジタル技術手法	調査試験		事後評価未実施					
34	KT-230035-VE	現場端末システム(Mr.Samurai 3D)	現地測量及び3次元設計データを利用した出来形管理などに応用可能な多機能電子野帳	調査試験		C	B	B	C	B	C
35	KT-230049-VE	施工管理支援システム「SPIDERPLUS」	クラウドサーバーに蓄積された施工管理情報を用いて帳票の作成を支援する技術。	CALS関連技術		B	B	B	B	B	B
36	QS-190016-VE	路面性状調査 メジャーロードカー	舗装表面の5つの測定を同時に計測し、自動解析するシステム	調査試験	活用促進	B	B	B	B	B	B

A 従来技術より極めて優れ B 従来技術より優れる C 従来技術と同等 D 従来技術より劣る

令和6年度に九州地方整備局管内において活用された新技術は、以下のとおりです。

番号	NETIS登録番号	技術名	副題	工種	有用な技術 (令和7年4月現在)	活用効果評価結果					
						経済性	工程	品質	安全性	施工性	環境
37	QS-200024-VE	クラウド共有シュミットハンマー(コンクリート用)「シュミットLive」	測定値をリアルタイムで共有できるコンクリート圧縮強度試験機	調査試験		C	B	B	C	B	-
38	QS-210015-A	クラウド型鉄筋探査非破壊試験装置(GP8800)	測定データをリアルタイムで共有できるレーダ探査装置	調査試験		事後評価未実施					
39	QS-220032-A	現場環境一元管理システム(NDX-Cloud)	現場環境や計器データを見える化し、環境管理、施工管理をリアルタイムに行えるシステムである。	調査試験		事後評価未実施					
40	QS-220047-VE	ハンディ型3Dモデル投影「高精度AR(拡張現実)システム」	タブレット等の画面を通して、完成イメージ等の3次元モデルを現実世界に高精度に投影可能なARシステム	調査試験		D	C	C	C	B	C
41	QS-240020-A	地中探査機Stream DPを使用した地中探査データの3次元可視化技術	高密度で得た地中内情報を3次元で可視化する技術	調査試験		事後評価未実施					

A 従来技術より極めて優れる B 従来技術より優れる C 従来技術と同等 D 従来技術より劣る

1

小黑板電子化アプリ「SiteBox」

KT-230048-VE

本技術は、移動用端末の撮影機能と連動した電子黑板のアプリケーション技術であり、従来は黑板とチョークを使用したデジタルカメラの撮影による。本技術の活用により、現場で黑板とチョークの準備が不要となるため、現場状況の撮影作業が効率化し、施工工程が短縮化する。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	低下(32%)	C
工程	短縮(87%)	B
品質	同程度	-
安全性	同程度	-
施工性	向上	B
環境	同程度	-

2

現場クラウド One_現場支援機能サービス

QS-190005-VE

本技術は、従来の受発注者間情報共有システムに加え、「施工体制台帳の作成支援機能」及び「施工プロセスチェック機能」の活用をすることにより書類作成の時間短縮等業務効率化を実現する事ができる。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(42%)	B
工程	短縮(82%)	B
品質	同程度	-
安全性	同程度	B
施工性	向上	B
環境	同程度	B

3

データ共有クラウドサービス「CIMPHONY Plus」

KK-210003-VE

活用促進

本技術は、写真や3次元データを時間と位置情報で管理し3次元地図上に可視化して現場状況を確認する技術で、従来はサーバー等からデータをダウンロードして専用ソフトで閲覧、印刷・データ共有していた。活用により経済性、データ品質、施工性向上、工程短縮が期待できる。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(40%)	B
工程	短縮(22%)	B
品質	向上	B
安全性	同程度	B
施工性	向上	B
環境	同程度	-

4

自然災害防災システム ZEROSAI

QS-150021-VE

本システムは建設現場に設置した気象測器から観測データをリアルタイムに収集し高精度な気象予測を作成するもので、従来は気象庁のデータのみで気象予測を作成していた。本システムの活用により気象の急変に対応した安全対策が可能になり、安全性の向上が期待できる。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(18%)	C
工程	同程度	C
品質	向上	C
安全性	向上	B
施工性	同程度	C
環境	向上	C

5

電子小黒板入力支援アプリ「黒板作成・連携ツール」

KT-240010-A

本技術は、PC上で電子小黒板データの事前入力支援を行なうアプリである。従来は、チョーク書き黒板とデジタルカメラを用いた撮影で行っていた。本技術の活用により、現地での黒板記入時間が短縮し、作業員の労務費が削減されるため、工程短縮と経済性の向上が図れる。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(65%)	-
工程	短縮(78%)	-
品質	向上	-
安全性	同程度	-
施工性	向上	-
環境	同程度	-

事後評価未実施

6

遠隔臨場SiteLive

CB-220022-VE

本技術は、遠隔臨場に特化した撮影・配信システムであり、従来技術では監督職員が現地で立会のもと行っていた臨場確認に代えて、スマートデバイスで映像配信し、非対面で臨場が行えます。本技術の活用により、省力化・省人化が図られ経済性が向上します。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(12%)	B
工程	短縮(23%)	B
品質	同程度	C
安全性	向上	B
施工性	向上	B
環境	向上	B

7

FMR スキャナー (高速移動路面3Dスキャナー)による路面調査

QS-190035-VE **活用促進**

長距離路線を把握・管理するために幾度となく現場へと足を運ぶことなく、高速移動路面3Dスキャナーを使用することによって路面状況を取得し表示することで、距離を問わず安易に路面管理が出来るシステムである。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(76%)	B
工程	短縮(67%)	B
品質	同程度	C
安全性	向上	B
施工性	向上	B
環境	向上	B

8

環境計測サービス「みまわり伝書鳩」

KK-210022-VE

本技術はICTを利用した環境観測システムの技術であり、従来は人力による現場環境計測で対応していた。本技術の活用により、観測地点まで行かなくていいため労務費の減少による経済性、施工性の向上が期待できる。



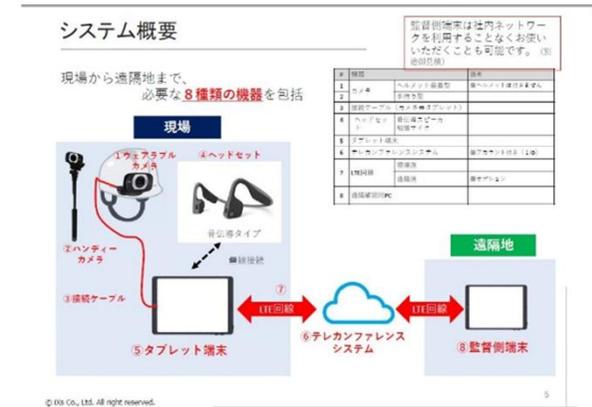
項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(68%)	B
工程	同程度	C
品質	同程度	C
安全性	同程度	B
施工性	向上	B
環境	同程度	-

9

遠隔臨場システム「GENBA-Remote」

KT-230078-VE

本技術は、工事現場の段階確認等を、映像及び音声を用いて遠隔臨場により出来る技術で、従来は監督員の現場臨場で対応していた。本技術の活用により、現場臨場が削減でき合理化による施工性の向上が図れる。



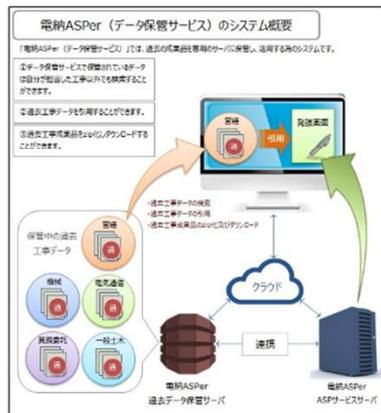
項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	低下(2%)	C
工程	増加	B
品質	同程度	-
安全性	同程度	C
施工性	向上	B
環境	同程度	-

10

受発注者間の情報共有システム「電納ASPer(データ保管サービス)」

KK-160040-VE

本技術は、標準化仕様の情報共有システムの活用範囲を営繕・業務委託まで広げ、複数工事(業務)間における情報共有も実現をし、過去に作成した電子成果品を受発注者間で共有することができるなど、幅広い情報共有を図ることができるシステムです。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(45%)	B
工程	短縮(5%)	B
品質	同程度	-
安全性	同程度	-
施工性	向上	C
環境	同程度	C

11

自動合成機能を搭載した地上型レーザースキャナーシステム

KK-220044-VE

本技術は3D測量においてセルフオートキャリブレーションやリアルタイムで自動合成を行える地上型レーザースキャナーシステムの技術であり、本技術の活用により施工性の向上、経済性の向上、工程短縮が期待できる。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(17%)	B
工程	短縮(30%)	B
品質	同程度	C
安全性	同程度	C
施工性	向上	B
環境	同程度	C

12

傾斜監視クラウドシステム(OKIPPA)

KT-190097-VE

活用促進

本技術は、自営の基地局や配線を整備せず、センサボックスを設置するだけで傾斜監視できるシステムで、従来は特定小電力無線による傾斜監視システムで対応していた。本技術の活用により、省電力の広域無線通信(LPWA)を経由するため、経済性及び施工性の向上が期待できる。



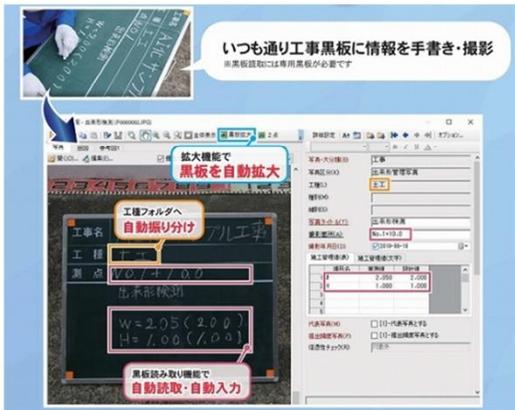
項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(67%)	B
工程	短縮(80%)	B
品質	同程度	C
安全性	向上	B
施工性	向上	B
環境	向上	B

13

工事写真 黒板自動解析システム

HR-190001-VE

本技術は自動解析専用黒板に記載された手書き文字を自動解析し、工事写真の自動振り分け、施工管理情報を自動入力する技術で、従来は目視・手動で工事写真の振り分け、施工管理情報の入力をしてきた。本技術の活用により、経済性の向上、工程の短縮が期待できる。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(67%)	B
工程	短縮(70%)	B
品質	低下	C
安全性	同程度	C
施工性	向上	B
環境	同程度	C

14

スマートフォンによる道路点検DXシステム「GLOCAL-EYEZ」

KK-230048-A

活用促進

本技術は、パトロール車などに取り付けたスマートフォンによる道路点検DXシステムである。従来は、目視点検と専用車両による路面性状調査をしていたが、本技術により、道路パトロール効率化と路面点検が同時に実施でき、道路管理の品質向上と点検コスト縮減が期待できる。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(33%)	-
工程	短縮(30%)	-
品質	向上	-
安全性	同程度	-
施工性	向上	-
環境	同程度	-

事後評価未実施

15

アンカーボルト引張荷重の一体型試験測定システム(テクノテスターシリーズ)

KT-170007-VE

活用促進

本技術は一体型アンカーボルト引張荷重試験機で従来は油圧シリンダ、反力台などを用いたアンカーボルト引張荷重試験機で対応していた。本技術の活用により多くの引張試験を行う際の組立作業の軽減と、データ保存もできる効果により安全性の向上と工程の短縮が図れる。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(33%)	B
工程	短縮(50%)	B
品質	向上	B
安全性	向上	C
施工性	同程度	B
環境	同程度	C

16

移動体計測技術を用いたUAV空中測量システム

KT-170064-VE **活用促進**

本技術は、自動追尾トータルステーションによる移動体計測技術を用いたUAV空中測量システムで、従来は、標定点設置によるUAV空中写真測量システムで対応していた。本技術の活用により標定点設置、抽出作業を削減できるため工程の短縮及び経済性、施工性の向上が図れる。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(47%)	B
工程	短縮(38%)	B
品質	同程度	C
安全性	同程度	C
施工性	向上	B
環境	同程度	C

17

道路区画線健全度診断システム

CG-190014-VE **活用促進**

区画線の健全度調査は、従来調査員による道路上での目視又は、路面撮影した画像により評価していたが、本技術は走行車両からのスマホ自動撮影、AI技術による区画線の自動認識・剥離率の解析・判定結果の電子地図上への表示等、調査の効率化、定量化、可視化が図れる。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(77%)	B
工程	短縮(75%)	B
品質	向上	B
安全性	向上	B
施工性	向上	A
環境	向上	B

18

高精度MMSでスイスイ3D現況測量

KT-150010-VE **活用促進**

本技術は、車両などで移動しながら同時に3D測量を行って、その測量データを補正する技術で、従来は、トータルステーションを利用した測量で対応していた。本技術の活用により、座標点群の傾きや歪みが補正されるので、測量データの精度を大幅に高めることができる。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(49%)	B
工程	短縮(50%)	A
品質	向上	B
安全性	向上	B
施工性	向上	B
環境	向上	B

19

RICOH Drive電子黒板アプリ(スマートフォンデバイス用)

KT-160005-VE

本技術は撮影時写真内部に黒板情報を埋め込み、写真の自動整理をおこなうものです。従来は物理黒板を使用した写真撮影及び手入力による写真整理を行っていた。本技術の活用により写真整理業務の自動化が図れるとともに、写真の視認性が上がるので品質が向上します。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(48%)	B
工程	短縮(50%)	B
品質	向上	C
安全性	向上	B
施工性	向上	B
環境	同程度	C

20

センチメートル級精度の対空標識「エアロボマーカー」

KT-180029-VE

R7推奨・活用促進

本技術は標定点・検証点に設置するだけでセンチメートル級精度の測量を可能にした対空標識で、従来はトータルステーションによる測量で対応していた。本技術の活用により、複数のGPS搭載マーカーによる多点同時計測が容易にできるため、省力化及び経済性の向上が図れる。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(79%)	B
工程	短縮(93%)	B
品質	同程度	C
安全性	同程度	B
施工性	向上	B
環境	同程度	-

21

UAV画像によるクラウド型写真測量サービス「KUMIKI」

KT-230192-A

本技術は、空撮画像から地形データを自動生成し、クラウド上で距離、体積、断面等を計測、情報共有が可能なシステムで、従来は、高性能パソコンと写真測量ソフトで対応していた。本技術の活用により、データ作成等の省力化となるため、施工性の向上が図れる。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(76%)	-
工程	短縮(99%)	-
品質	同程度	-
安全性	同程度	-
施工性	向上	-
環境	同程度	-

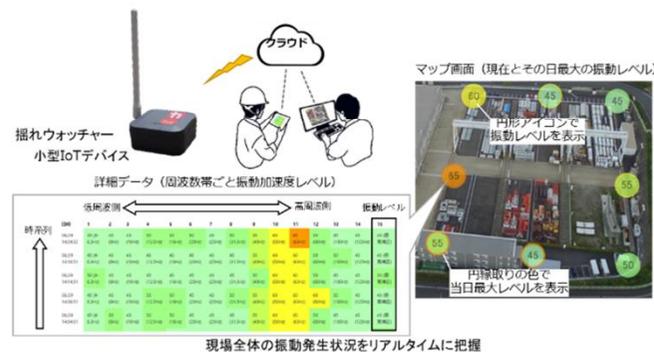
事後評価未実施

22

振動モニタリングシステム「揺れウォッチャー」

KT-230245-A

本技術は、工事現場で振動の測定、管理が可能な、IoT機器による多点の振動モニタリングシステムである。従来は、作業員が現地でデータを回収、事務所で分析により対応していた。本技術の活用により、データ回収、分析のための人件費を低減できるため経済性の向上が図れる。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(66%)	-
工程	同程度	-
品質	同程度	-
安全性	向上	-
施工性	向上	-
環境	向上	-

事後評価未実施

23

歩くだけで3次元測量が可能なSLAM技術ハンディスキャナ「X120GO 3D SLAM レーザースキャナ」

KT-230271-A

本技術は、SLAM技術を活用したハンディスキャナを用いて3次元点群データを取得する技術である。従来は、地上型レーザースキャナで対応していた。本技術の活用により、省人化、省力化、計測時間の短縮により、経済性の向上と工程の短縮が図れる。

◆3次元ハンディスキャナ「X120GO」使用イメージ



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(70%)	-
工程	短縮(80%)	-
品質	同程度	-
安全性	同程度	-
施工性	向上	-
環境	同程度	-

事後評価未実施

24

水位・水質・気象データ等クラウド監視システム「わかるくん」

QS-200050-VE

本技術は、水位、水質、気象データ等の観測技術である。各種データをリアルタイムに収集し、クラウドにより遠隔でもPC・スマホ・タブレット等で確認共有が可能で、従来は、水位センサと簡易アラートで対応していた。本技術の活用により、クラウド管理が可能となる。



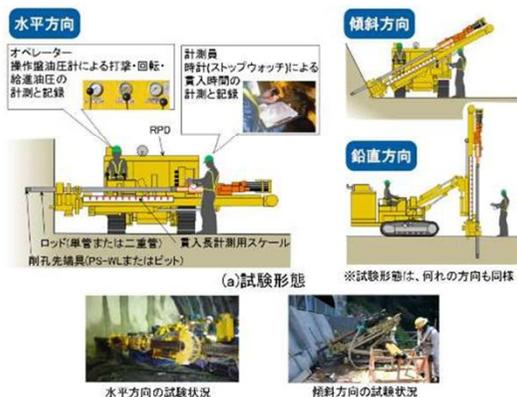
項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	低下(41%)	C
工程	同程度	C
品質	同程度	B
安全性	同程度	B
施工性	向上	B
環境	同程度	C

25

RPDによる岩盤の多方向動的貫入試験

HR-180003-A

本技術は、岩盤の水平・傾斜方向の測定とコア試料の採取が同時にできるRPDを利用した動的貫入試験方法である。従来は、ロータリー式コアボーリング及び採取コアの針貫入試験と一軸圧縮試験で対応していた。本技術の活用により、調査工程の短縮や施工性の向上が期待できる。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	低下(6%)	-
工程	短縮(52%)	-
品質	同程度	-
安全性	同程度	-
施工性	向上	-
環境	低下	-

事後評価未実施

26

配管用RI密度計PIRICA

KK-170002-VE

本技術は、放射線を利用して配管内を流れる試料(汚泥、泥土、セメントミルク、PCグラウト材、ダムの堆砂等)の密度を測定する機器である。測定対象物の試料採取が不要でリアルタイムかつ連続的に密度測定・モニタリングが可能であり、品質と経済性の向上が期待できる。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(28%)	C
工程	同程度	C
品質	向上	B
安全性	同程度	C
施工性	向上	B
環境	同程度	C

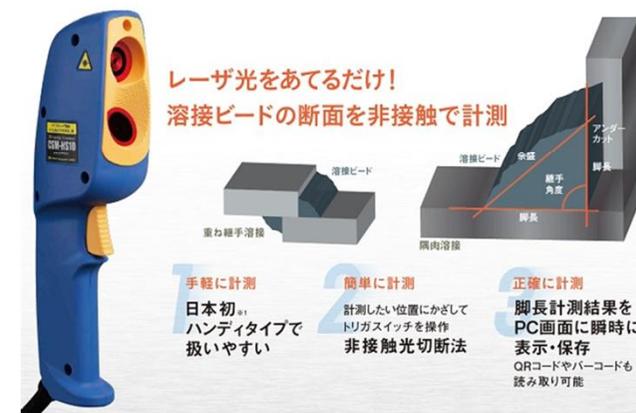
27

溶接部ビード計測用3Dハンディスキャナ脚長計測パッケージ「CSM-HSシリーズ」

KK-200009-VE

活用促進

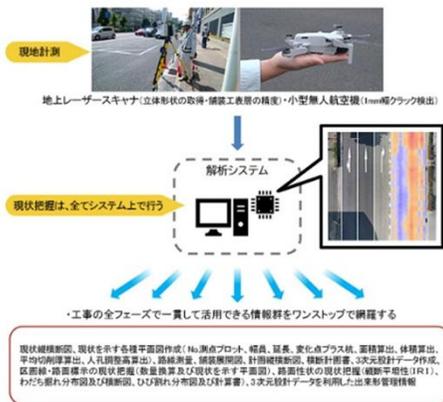
本技術は、レーザ光をあてるだけで溶接ビードの断面を非接触で計測・記録できるシステム技術であり、従来は、溶接ゲージを使った人手による計測で対応していた。本技術の活用により経済性、品質、施工性の向上および工程の短縮が期待できる。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(12%)	B
工程	短縮(25%)	B
品質	向上	B
安全性	同程度	-
施工性	向上	B
環境	同程度	-

28 測量美術
KK-220075-A

本技術は、路面性状の現状把握および舗装修繕工事用の図面作成を行う技術で、従来は巻尺や目視点検で対応していた。本技術の活用により3次元データで現状把握が可能となり、経済性・品質・安全性・施工性・周辺環境への影響の向上及び工程の短縮が図れる。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(93%)	-
工程	短縮(83%)	-
品質	向上	-
安全性	向上	-
施工性	向上	-
環境	向上	-

事後評価未実施

29 コンクリート構造物内の埋設物非破壊探査装置
KT-150040-VE

本技術はコンクリート構造物内の鉄筋、電配管及び空洞等を広帯域な電磁波で探査する技術で、従来は狭帯域な電磁波で対応していた。本技術の活用により、間隔が狭い配筋の探査が可能となり非破壊検査の品質の向上が図れます。



NJJ-105/NJJ-105K

NJJ-200/NJJ-200K

項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	同程度	C
工程	同程度	C
品質	向上	B
安全性	同程度	C
施工性	同程度	C
環境	同程度	C

30 プロテスター-TRシリーズ
KT-160111-VE **活用促進**

本技術は、あと施工アンカーボルトの施工強度を人力で計測する引張荷重確認試験機であり、従来は油圧式アンカーボルト引張荷重検査器で対応していた。本技術の活用により、取付物を取り外さずに計測可能となり、工期短縮・省力



仕様		プロテスター-TR-20F	プロテスター-TR-75F	プロテスター-TR-150F	
測定アンカー	測定アンカー	M8~M16 W19~W28	線付の方式 (糸巻カプ使用)	M6~M16 W14~W28	
	測定精度	測定精度：±1%RO ヒステリシス：±1%RO		測定精度：±3%RO ヒステリシス：±3%RO	
	外径	スタンダード規格			
	寸法	外形φ40 内径φ20.5 高さ30mm	外形φ45 内径φ26.5 高さ20mm	外形φ70 内径φ34.5 高さ30mm	
質量	約125g(ケーブル含まず)		約130g(ケーブル含まず)		
その他	保護等級：IP67 (メンテナンスに含まず、LED光源搭載)				
その他	電源	リチウムイオン電池×2本(充電済み状態で使用可能)			
	使用環境	使用温度：5~45℃			
	ケーブル	使用ケーブル：85%RH以下(結露のないこと)			
	表示部	約220g(ケーブル含まず)			
表示部	LCD：128×64ピクセル 2ライン				

項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(51%)	B
工程	短縮(67%)	B
品質	向上	B
安全性	同程度	B
施工性	向上	A
環境	同程度	C

31

クラウド計測システム『クラウド16』

KT-180043-VE

活用促進

本技術は最大16台の各種計測情報をクラウドサーバーを用いて一括管理できる技術で従来は複数のロガー機器を組み合わせることで人員による管理で対応していた。本技術の活用により、計測データが自動で蓄積し、データ回収の手間を削減できるため、経済性の向上が図れる。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(15%)	A
工程	同程度	-
品質	向上	B
安全性	向上	A
施工性	同程度	-
環境	同程度	-

32

フォトラクション

KT-200062-VE

活用促進

本技術は工事現場等で使う写真図面書類を一元管理し端末より関係者全員が瞬時に共有できる技術である。従来は個別管理で複雑化していた。本技術の活用により、現場単位によるデータの整理・共有を一貫で行うことが可能となり、施工性の向上・経済性の向上が図れる。

建設支援クラウド「Photoruction」

photoruction

写真や図面など施工管理に必要な情報をオールインワンで管理することが出来ます。
データ抽出や権限の細かい設定なども可能なため現場のみならず管理者も含めた生産性向上に寄与します。



© Photoruction Inc.

項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(69%)	B
工程	短縮(69%)	B
品質	向上	B
安全性	同程度	-
施工性	向上	B
環境	向上	B

33

ハイパー・スタッキング機能を有したデジタル型の地中レーダアンテナ

KT-220059-A

本技術は、1パルス512ポイントでデータを取得し、同時にスタッキング処理を行うことにより、データ品質を向上させた地中レーダアンテナです。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上	-
工程	同程度	-
品質	向上	-
安全性	同程度	-
施工性	同程度	-
環境	同程度	-

事後評価未実施

34 現場端末システム（Mr.Samurai 3D）
KT-230035-VE

本技術は、現地測量から出来形管理まで作業員1名で行うことが可能な電子端末システムであり、従来はTS用電子野帳による。本技術の活用により、GNSS受信機と一体化したポールと電子端末の移動のみで測量が可能となり、施工性が向上する。



GNSS観測に採用される新技術の機材構成

モーター駆動式TSに採用される新技術の機材構成

項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	低下(32%)	C
工程	短縮(29%)	B
品質	同程度	B
安全性	同程度	C
施工性	向上	B
環境	同程度	C

35 施工管理支援システム「SPIDERPLUS」
KT-230049-VE

本技術は、カメラ付きタブレットにより撮影された写真と電子図面が紐づけられた情報を用いて帳票作成を支援する技術である。従来はデジタルカメラで撮影した画像等を手作業で編集していた。本技術の活用により、帳票の自動編集が可能となるため、施工性の向上が図れる。

SPIDERPLUS について

建設業向け
現場管理アプリSPIDERPLUS
多くの総合建設会社、設備・電気会社を中心に
全国で利用が広がっています

<https://spider-plus.com>

- 図面管理
- 工事写真
- 資料閲覧
- 帳票出力
- 施工記録
- 配筋検査
- 仕上検査
- 工事進捗
- 指摘管理
- 機器連携

SPIDERPLUSは従来の紙の図面をiPadアプリで閲覧し、各種施工検査もアプリで行います。

品質（施工精度）が向上し、生産性もアップ。また、検査スキルの標準化にもなり、現場経験の浅い方でもスムーズに施工・検査が行えるようになります。

現場の様々な場面で活躍し、今までの業務がより効率的に、社内外のコミュニケーションを円滑に、図面ベースで情報共有することができ、建設業・メンテナンス業向けのオールインワンソリューションです。

建設業の「働き方改革」を追求！



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(45%)	B
工程	短縮(39%)	B
品質	向上	B
安全性	同程度	B
施工性	向上	B
環境	向上	B

36 路面性状調査 メジャーロードカー
QS-190016-VE **活用促進**

舗装面を車両で走査することにより、5つの測定(ひび割れ、わだち掘れ、平坦性、距離、IRI)を同時に計測できる。従来は、全て人力により、別々に測定していた。本システムの活用により、計測時間の短縮と安全性、品質の向上が期待できる。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(84%)	B
工程	短縮(77%)	B
品質	向上	B
安全性	向上	B
施工性	向上	B
環境	向上	B

37

クラウド共有シュミットハンマー（コンクリート用）「シュミットLive」

QS-200024-VE

本技術は、コンクリートの圧縮強度の非破壊試験技術である。強度は反発度法により推定し、打撃角度や打撃面の湿潤状態などを自動補正・自動集計し、クラウドによりデータ共有できる。本技術の活用により関係者がリアルタイムで強度を把握することができる。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(2%)	C
工程	短縮(79%)	B
品質	向上	B
安全性	同程度	C
施工性	向上	B
環境	同程度	-

38

クラウド型鉄筋探査非破壊試験装置（GP8800）

QS-210015-A

（QS-210015-A）本技術は、コンクリートの配筋状態に関する非破壊試験技術である。配筋等は電磁波レーダにより検査し、その場で鉄筋の被りおよび間隔を特定しクラウドによりデータを共有できる。本技術の活用により関係者がリアルタイムで配筋状態等を把握することができる。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	低下(127%)	-
工程	短縮(59%)	-
品質	向上	-
安全性	同程度	-
施工性	向上	-
環境	同程度	-

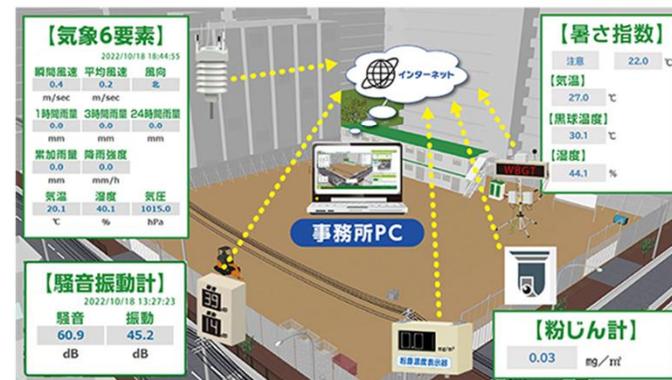
事後評価未実施

39

現場環境一元管理システム（NDX-Cloud）

QS-220032-A

（QS-220032-A）本技術は、調査試験に関する技術である。現場環境や計器のデータを一元化しクラウドでリアルタイムに見える化したシステムで現場環境、施工性に寄与する技術である。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	低下(46%)	-
工程	同程度	-
品質	同程度	-
安全性	向上	-
施工性	向上	-
環境	同程度	-

事後評価未実施

40

ハンディ型3Dモデル投影「高精度AR（拡張現実）システム」

QS-220047-VE

システム」（QS-220047-VE）本技術は、施工管理に関する技術である。タブレット等の画面を通して、完成イメージ等の3次元モデルを現実世界に高精度に投影可能なARシステムで、従来は、図面を用いた現地立会、現地打合せで対応していた。本技術の活用により、現地立会等での合意形成が容易となる。



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	低下(53%)	D
工程	同程度	C
品質	同程度	C
安全性	同程度	C
施工性	向上	B
環境	同程度	C

41

地中探査機Stream DPを使用した地中探査データの3次元可視化技術

QS-240020-A

本技術は、埋設物・空洞探査用技術である。従来は測定方向に対して、幅方向に中心1側線の点で地中情報を取得していたが、複数並べて搭載したアンテナにより、面的に取得し、容易に解析可能なトモグラフィ画像で解析を行ったデータを3次元で可視化する技術である。

地中探査機 Stream DP



項目	申請情報	評価結果 (C:同程度)
経済性	向上(83%)	-
工程	短縮(80%)	-
品質	同程度	-
安全性	同程度	-
施工性	向上	-
環境	同程度	-

事後評価未実施